

学校法人 実践女子学園

平成 22 年（2010 年）度事業報告書

学校法人 実践女子学園

## 目 次

<b>I</b>	<b>建学の精神、教育理念及び概要</b> ……………	<b>1</b>
	◎建学の精神……………	1
	◎本学の教育理念……………	1
	◎学園第2世紀の教育使命……………	1
	◎学園の概要……………	1
	1 学園の目的……………	1
	2 教育の趣旨……………	1
	3 設置する学校及び所在地……………	2
	4 沿革……………	2
	5 組織……………	4
	6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数……………	5
	7 役員・評議員……………	6
	8 教職員数……………	8
	9 関係する会社……………	9
<b>II</b>	<b>平成22年(2010年)度事業の概要</b> ……………	<b>10</b>
	1 建学の精神の高揚―創立者下田歌子顕彰事業……………	10
	2 教育事業の推進……………	11
	3 教育研究活動支援の推進……………	15
	4 学生・生徒支援の推進……………	16
	5 国際交流の推進……………	17
	6 社会貢献・地域連携等の推進……………	18
	7 入試・広報の推進……………	19
	8 管理運営……………	20
	9 情報インフラの整備……………	21
	10 地球温暖化対策の推進……………	21
	11 施設設備の改修・更新等……………	21
	12 卒業生向け活動の推進……………	22
	13 創立120周年整備事業の推進……………	22
	14 財務計画……………	23
	15 主な事業活動実績……………	23
	16 参考資料……………	27
<b>III</b>	<b>財務の概要</b> ……………	<b>35</b>
	決算書類等……………	35
	1 資金収支計算書の状況……………	35
	2 消費収支計算書の状況……………	35
	3 貸借対照表の状況……………	36
	4 収益事業決算の状況……………	37
	5 今後の財政上の課題……………	37
	消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移(平成18年度～平成22年度)……………	38
	1 消費収支の推移……………	38
	2 貸借対照表の推移……………	38

## I 建学の精神、教育理念及び概要

### ◎建学の精神

本学の建学の精神は、学祖下田歌子が明治 32 年（1899 年）に設立した帝国婦人協会私立実践女学校規則第 1 条「本邦固有の女徳を啓発し、日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授し、賢母良妻を養成する」を継承しています。

### ◎本学の教育理念

下田歌子の遺訓に「女性の資質は、純一で慈愛に富み、その清らかな徳性とゆたかな情操をもって社会の弊を正し、広く世人に至福をもたらすことにある」と述べられています。

本学はこの資質の涵養につとめ内に剛、外に柔、時勢に即し適切な修練を重ね、絶えず進歩向上をはかり、世界の平和と人類の福祉とをめざして実践躬行、その任を果たすことをおのおのに期待します。

よって本学は深奥な学術の研究と教授とを行うとともに、教養を深め知徳そなわり心身すこやかに、品格高雅な女性を育成しようとするものです。

（昭和 48 年 11 月 29 日第 6 回大学・短期大学合同教授会）

### ◎学園第 2 世紀の教育使命

上記のような学祖下田歌子の建学の精神に立脚して、学園第 2 世紀の教育理念を“品格高雅にして自立自営し得る女子教育”としています。

大学・短期大学においては、幅広く深い教養と専門的学芸を考究する教育を、中学校高等学校においては、女子教育の伝統を踏まえた社会のニーズに応える教育を目標に掲げ、それぞれの教育使命を果たすべく教育研究の活性化や経営改善への取り組みを積極的に進めています。

[大学・短期大学の教育使命]

(1) 幅広い職業人養成 (2) 総合的教養教育 (3) 生涯学習 (4) 社会貢献

[中学校高等学校の教育使命]

(1) 質素・堅実を踏まえた品格ある女子教育の堅持 (2) 社会の変化を踏まえた女子教育の構築

### ◎学園の概要

#### 1 学園の目的

教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神及び上記の教育使命に基づいた学校教育を行っています。そして、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを実践し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的として、現在、本学園は実践女子大学、実践女子短期大学、実践女子学園高等学校、実践女子学園中学校の 4 校を設置しています。以下、特記なき場合、基準日は平成 23 年 3 月 31 日としています。

#### 2 教育の趣旨

建学の精神である女性の資質の涵養と品格ある女性の育成を目指して実学を中心に教授し、広い教養を持って自立し社会の一員としての責任を果たす人材を育ててまいります。また、常に自己点検・評価を行って自ら改善を図るとともに、それらを公表して社会的責任を果たし、さらなる前進を図ってまいります。

### 3 設置する学校及び所在地

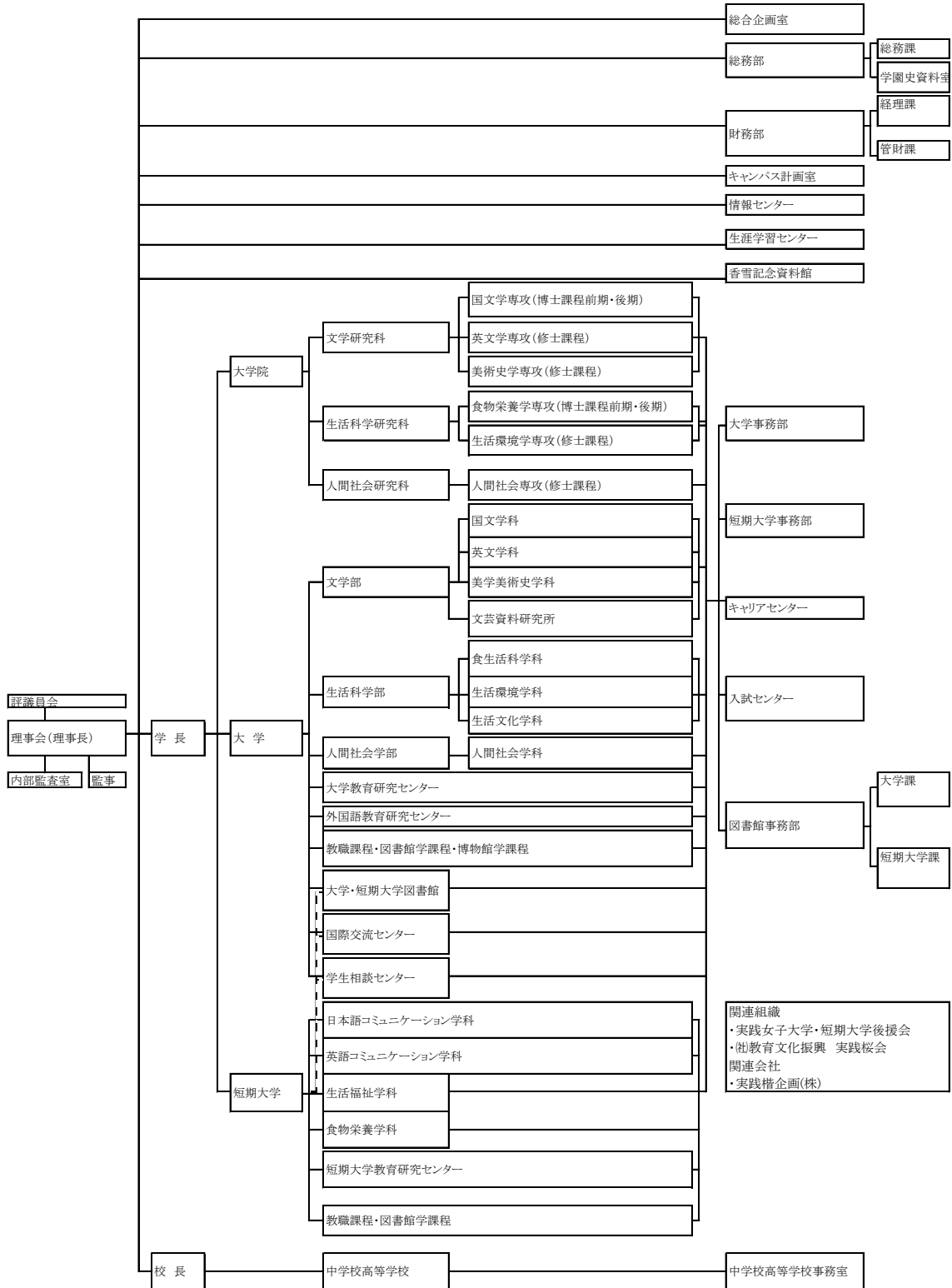
- (1) 大学 〒191-8510 東京都日野市大坂上 4-1-1  
 実践女子大学  
 文学部、生活科学部、人間社会学部  
 実践女子大学大学院  
 文学研究科、生活科学研究科、人間社会研究科
- (2) 短期大学 〒191-0016 東京都日野市神明 1-13-1  
 実践女子短期大学  
 日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科、  
 食物栄養学科
- (3) 高等学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11  
 実践女子学園高等学校 全日制課程 普通科
- (4) 中学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11  
 実践女子学園中学校 スタンダード実践クラス、グローバルスタディーズクラス

### 4 沿革

明治 32 年 (1899 年) 5 月	帝国婦人協会私立実践女学校並びに女子工芸学校を創設、千代田区麹町に開校
明治 36 年 (1903 年) 5 月	実践女学校・女子工芸学校を渋谷新校舎に移転
明治 41 年 (1908 年) 4 月	実践女学校・女子工芸学校を合併して私立実践女学校と改称し、更に実践女学校中等学部と改称。高等専門学部を開設し、家政科と技芸科を設置。 実践女学校付属幼稚園を開設。
昭和 7 年 (1932 年) 4 月	実践女学校各部の名称を実践女子専門学校・実践女子高等女学校、実践実科高等女学校と改称
昭和 9 年 (1934 年) 1 月	実践実科高等女学校の組織を改め実践第二高等女学校と改称
昭和 22 年 (1947 年) 4 月	新教育制度により、実践女子学園中学部を新設
昭和 23 年 (1948 年) 3 月	新教育制度により、実践女子学園高等学校を新設
昭和 24 年 (1949 年) 2 月	実践女子大学 (4 年制) 文家政学部設置
昭和 25 年 (1950 年) 4 月	実践女子学園短期大学家政科設置
昭和 27 年 (1952 年) 2 月	実践女子学園短期大学国文科、英文科増設
昭和 40 年 (1965 年) 1 月 4 月	実践女子大学文家政学部を廃止し、文学部、家政学部を設置 東京都日野市に大学教養課程の授業を移転
昭和 41 年 (1966 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 文学研究科国文学専攻、英文学専攻、家政学研究科食物・栄養学専攻設置
昭和 44 年 (1969 年) 4 月	実践女子大学大学院 (博士課程) 文学研究科国文学専攻設置
昭和 51 年 (1976 年) 4 月	東京都日野市に短期大学を移転
昭和 60 年 (1985 年) 12 月	実践女子大学文学部美学美術史学科設置
昭和 61 年 (1986 年) 4 月	東京都日野市に大学を全面移転
昭和 63 年 (1988 年) 4 月	実践女子短期大学国文科、英文科、家政科を国文学科、英文学科、生活文化学科に名称変更
平成元年 (1989 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 家政学研究科被服学専攻設置
平成 4 年 (1992 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 文学研究科美術史学専攻設置

平成 7 年 (1995 年) 4 月	実践女子大学生活科学部に生活文化学科を設置、実践女子大学家政学部食物学科、被服学科をそれぞれ生活科学部食生活科学科、生活環境学科に名称変更
平成 11 年 (1999 年) 4 月	実践女子大学大学院家政学研究科食物・栄養学専攻、被服学専攻を、それぞれ生活科学研究科食物・栄養学専攻、生活環境学専攻に名称変更
5 月	実践女子学園創立百周年記念式典挙行
平成 12 年 (2000 年) 4 月	実践女子短期大学国文学科、英文学科を日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科に名称変更、生活文化学科を廃止し、生活福祉学科及び食物栄養学科を設置
平成 16 年 (2004 年) 4 月	実践女子大学人間社会学部人間社会学科設置
5 月	学祖下田歌子生誕 150 年記念式典
平成 17 年 (2005 年) 4 月	実践女子大学大学院生活科学研究科食物栄養学専攻博士後期課程を設置、同食物・栄養学専攻修士課程を食物栄養学専攻博士前期課程に改める 実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程を博士前期課程・後期課程に改める
平成 19 年 (2007 年) 4 月	実践女子大学生活科学部生活文化学科を生活文化専攻と幼児保育専攻に専攻分離
平成 20 年 (2008 年) 4 月	実践女子学園中学校にグローバルスタディーズクラス (GSC) を設置
平成 21 年 (2009 年) 6 月	実践女子学園創立 110 周年記念行事を実施
平成 22 年 (2010 年) 4 月	実践女子大学大学院人間社会研究科人間社会専攻修士課程設置

# 5 組織 学園組織図



## 6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数

[大学]

学 部	学 科	入学定員	編入定員	収容定員	学 生 数
文学部	国文学科	120	15	510	627
	英文学科	120	15	510	613
	美学美術史学科	100	10	420	428
	小計	340	40	1,440	1,668
生活科学部	食生活科学科	145	19	618	672
	生活環境学科	80	10	340	377
	生活文化学科	85	15	370	418
	小計	310	44	1,328	1,467
人間社会学部	人間社会学科	140	20	600	706
大学計		790	104	3,368	3,841

[大学院]

研 究 科		専 攻	入学定員	収容定員	学 生 数
文学研究科	博士後期課程	国文学専攻	3	9	6
		国文学専攻	10	20	10
	修士課程又は博士前期課程	英文学専攻	6	12	3
		美術史学専攻	6	12	16
	小計		25	53	35
生活科学研究科	博士後期課程	食物栄養学専攻	2	6	2
		食物栄養学専攻	6	12	4
	修士課程又は博士前期課程	生活環境学専攻	6	12	4
		小計	14	30	10
人間社会研究科	修士課程	人間社会専攻	7	14	3
	小計	7	14	3	
大学院計			39	83	48

[短期大学]

学 科	入学定員	収容定員	学 生 数
日本語コミュニケーション学科	100	200	220
英語コミュニケーション学科	120	240	225
生活福祉学科	80	160	132
食物栄養学科	80	160	177
短期大学計	380	760	754

[高等学校・中学校]

学 校	ク ラ ス	募集人員	収容定員	生 徒 数
高等学校		320	1,500	931
中学校	スタンダード実践クラス(一般学級)	240	1,200	839
	グローバルスタディーズクラス(国際学級)	40		
高等学校・中学校計		600	2,700	1,770

学生・生徒数合計	6,413
----------	-------

## 7 役員・評議員

### (1) 役員の概要

(基準日：平成23年3月31日)

定員数 理事 10～13名、監事 2名

区分(担当)	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長 (財務)	井原 徹	常勤	平成18年4月1日監事就任 平成21年4月1日理事長就任
常務理事 (新校舎等建設、既存施設運営、労務、情報関係)	宮原 幹二	常勤	平成20年4月1日事業理事就任(総務部長) 平成21年4月1日常務理事就任
常務理事 (総合企画、総務、人事・福利厚生、SD)	安達 勉	常勤	平成21年4月1日事業理事就任(総合企画室部長) 平成22年9月29日常務理事就任
理事 (教学)	湯浅 茂雄	常勤	平成15年4月1日理事就任(実践女子大学・実践女子短期大学学長)
理事 (中等教育改革・高大連携)	嶋野 恵子	常勤	平成22年4月1日理事就任(実践女子学園中学校・高等学校校長)
理事 (入試・広報)	棚田 輝嘉	常勤	平成21年4月1日理事就任(大学文学部長)
理事 (第1～2期整備計画)	大久保 洋子	常勤	平成22年4月1日理事就任(大学生生活科学部長)
理事 (研究、FD・自己点検、学生、GP獲得)	飯田 良明	常勤	平成20年4月1日理事就任(大学人間社会学部長)
理事 (社会貢献・地域連携)	小林 修	常勤	平成19年4月1日理事就任(短期大学部長)
理事	池田 章子	非常勤	平成15年4月4日理事就任(ブルドックソース(株)代表取締役)
理事	鍛島 康子	非常勤	平成20年5月26日理事就任((社)教育文化振興実践桜会理事長)
理事	吉益 信治	非常勤	平成8年4月10日理事就任(弁護士)
理事	山本 章正	非常勤	平成20年4月1日理事就任(日野自動車(株)専務取締役)
監事	柳川 正興	非常勤	平成15年4月4日監事就任
監事	柿本 静志	非常勤	平成19年4月1日監事就任

平成22年度決算承認に係る理事会開催日(平成23年5月27日)までの役員異動状況

(平成23年4月1日就任)

副理事長	湯浅 茂雄	常勤	実践女子大学・短期大学学長
理事	萩野 敏	常勤	実践女子短期大学部長
理事	玉置 美佐子	常勤	実践女子学園中学校高等学校事務室部長

(平成23年5月19日退任)

理事	棚田 輝嘉	常勤	大学文学部長辞任のため
----	-------	----	-------------



## (2) 評議員の概要

(基準日：平成 23 年 3 月 31 日)

定員数 27～29 名

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
飯泉三枝子	文学部国文学科主任	安達勉	常務理事、総合企画室部長
難波雅紀	文学部英文学科主任	細井起次	財務部長
六人部昭典	文学部美学美術史学科主任	奥島尚樹	大学事務部長
秋田修	生活科学部食生活科学科主任	海野政司	短期大学事務部長
榎究	生活科学部生活環境学科主任	玉置美佐子	中学校高等学校事務室部長
須賀恭子	生活科学部生活文化学科主任	鍛島康子	(社)教育文化振興実践桜会理事長
松浦常夫	人間社会学部人間社会学科主任	大川徳子	(社)教育文化振興実践桜会役員
佐藤辰雄	日本語コミュニケーション学科主任	田中逸子	(社)教育文化振興実践桜会役員
三田薫	英語コミュニケーション学科主任	飯尾美甫	(社)教育文化振興実践桜会役員
藺田碩哉	生活福祉学科主任	横田紀代子	(社)教育文化振興実践桜会役員
白尾美佳	食物栄養学科主任	池田章子	ブルドックソース(株)代表取締役
武田忠利	中学校高等学校副校長	井原徹	理事長
田中勉	高等学校教頭	宮原幹二	常務理事
鈴木真知子	中学校教頭	吉益信治	弁護士

平成 22 年度決算承認に係る評議員会開催日（平成 23 年 5 月 27 日）までの評議員異動状況

(平成 23 年 4 月 1 日就任)

山内博之	文学部国文学科主任	遠藤光	英語コミュニケーション学科主任
本間洋子	生活科学部生活文化学科主任	芦川修貳	食物栄養学科主任
数野昌三	人間社会学部人間社会学科主任	寺出浩司	生活福祉学科主任
松浦常夫	人間社会学部現代社会学科主任	藤代洋一	総務部長

## 8 教職員数

[専任教員及び助手、副手数]

(平成22年5月1日現在) (単位:人)

		学 長	教 授	准 教 授	専 任 講 師	助 教	助 手	副 手	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	計	
大 学	学長	1											1	
	文学部	国文学科		9		2	1	3						15
		英文学科		6	3	2	1	2						14
		美学美術史学科		8	2	1	1	3						15
		文芸資料研究所		1										1
	生活科学部	食生活科学科		15	1	1	1	16						34
		生活環境学科		8	2		2	6						18
		生活文化学科		8	3	1	1	4						17
	人間社会学部	人間社会学科		11	6	2		3						22
	教職・図書館学課程			3	1			1						5
	外国語教育研究センター			2	1	1		1						5
	博物館学課程						1							1
	小計		1	71	19	10	8	39	0					148
短 期 大 学	学長	(1)											(1)	
	日本語コミュニケーション学科			4	2				2				8	
	英語コミュニケーション学科			5	2			1	2				10	
	生活福祉学科			4	2				2				8	
	食物栄養学科			5	1			5	1				12	
	教職・図書館学課程			2	1								3	
	小計		(1)	20	8	0	0	6	7					41
高等学校							2		1	1	1	45	50	
中学校											1	41	42	
小計		0	0	0	0	0	2	0	1	1	2	86	92	
教員・助手・副手 計		1	91	27	10	8	47	7	1	1	2	86	281	

(注)学長は大学・短期大学を兼務。校長及び副校長は、高等学校・中学校を兼務。

大学、短期大学の助手には、教育研究系契約職員(助手)を含む。

[職員数]

(人)

事務系	63
管理系	14
契約等	23
職員数合計	100

以上、教職員数総合計 381人

## 9 関係する会社

実践楷企画株式会社

- ①所在地 〒191-0002 東京都日野市新町 1-12-4
- ②代表取締役 長島 敏市
- ③設立年月日 平成 13 年 3 月 1 日（平成 22 年 10 月 1 日社名変更）
- ④従業員数 4 名
- ⑤主な事業 建物等の清掃・警備・保守、清涼飲料水等の販売、文房具等販売、教材・書籍等の印刷・販売、文化教室・各種講演会・イベント等の運営、一般労働者派遣業、損害保険代理店業務、その他
- ⑥資本金額 2,000 万円
- ⑦出資割合 100%
- ⑧売上高 34,867 万円

## II 平成 22 年（2010 年）度事業の概要

実践女子学園及び設置学校が平成 22 年（2010 年）度に行った主要な事業は、以下のとおりです。

### 1 建学の精神の高揚—創立者下田歌子顕彰事業

創立者下田歌子の建学の精神を高揚すべく、創立者を顕彰する事業や諸行事を行いました。

#### (1) 岐阜県恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」の推進

創立者下田歌子の業績を顕彰して、本学園、岐阜県恵那市及び恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」実行委員会主催、PHP 総合研究所共催、東京都日野市後援による「下田歌子賞」は、昨年に続き「ふるさとの先人に学ぶ」をテーマとするエッセイを全国公募しました。

美学美術史学科酒井講師のデザインによるポスターとチラシを 7 月に全国各地に配布して募集を行った結果、308 名からエッセイの応募があり、選考委員による厳正な選考が行われました。

また、和歌に造詣の深かった下田歌子に因んで、今年初めて「短歌の部」の募集を行ったところ、「家族・思いやり」の題に対し 746 名 1,311 首の応募があり、市民の投票による選考が行われました。平成 22 年 11 月 27 日（土）には恵那市岩村公民館において、理事長以下 6 名が出席して表彰式・記念イベントを行いました。

#### (2) 恵那市との協定締結

本学園と恵那市との間の絆を一層深め、お互いの発展に寄与することを目的として包括的な連携協定を結ぶ構想の下、両者の間で折衝を進めてきました。連携協定の内容が固まったので、11 月 27 日（土）に恵那市岩村公民館において、学園関係者と恵那市関係者が出席して、井原理事長と恵那市長による協定書調印が行われました。

連携協定締結後の具体的な協力活動として、平成 23 年 1 月に生涯学習センター長大関教授（文学部英文学科）による恵那市生涯学習フォーラム出講、大学図書館大井課長補佐による明知町での講演などが実施されました。

#### (3) 恵那市岩村町での学祖法要の実施

理事長以下 16 名が、6 月 12・13 日に恵那市を訪問し、隆崇院での法要の後、下田家並びに平尾家墓所に参拝しました。また、永年にわたって本学園と岩村町との親善に尽力いただいている鈴木隆一氏に対し、感謝状を贈呈し「実践女子学園岩村町親善大使」に任命しました。

#### (4) 恵那市岩村町並びに学校における学祖教育、校祖学習の推進

昨年度初めて実施した恵那市岩村町における大学・短期大学夏季セミナー「学長と行く、学祖故郷の旅」を、本年度も 9 月 8～10 日に 33 名（大学生 21 名、短期大学生 4 名、教員 5 名、職員 3 名）が参加して実施し、学祖の足跡をたどってきました。

また、大学・短期大学の新共通教育・実践スタンダード科目「実践入門セミナー」では、本年度も学長自ら学祖教育を行って、建学の精神の定着を図り、学祖顕彰を行いました。

中学校では 1 年生が校祖学習を行い、2 年生が伝統となっている恵那市岩村町における移動教室を行いました。

#### (5) 『源氏物語』公開講座等の開催

学祖下田歌子は最晩年まで『源氏物語』を講義しましたが、それ以来連綿と続けられている本学の『源氏物語』研究の成果を広く社会に伝えるために、公開講座を連続開催しています。本年も、11月6日（土）、本学に観世流 26 世宗家観世清和氏と書誌学者・林望氏を招き、公開市民講座「源氏物語と能」を香雪記念館で開催しました。また、観世家伝来の能面等の特別展示も併せて行われました。

## 2 教育事業の推進

本学園が設置する各学校では、多様な教育展開の構想を一つひとつ具体化し実現すべく本年度も積極的に取り組みました。

### 〔大学・大学院、短期大学〕

#### (1) 人間社会研究科人間社会専攻修士課程の開設

産業が高度化し人間関係が複雑化する現代社会で、中堅幹部としてリーダーシップを発揮できる高度な専門的知識と技能を兼ね備えた人材の育成を目指す人間社会研究科を、本年4月に開設しました。初年度の入学者は3名でした。

#### (2) 文学研究科美術史学専攻の博士後期課程設置の準備

美術史学専攻は、平成4年（1992年）度に修士課程を開設して以来数多くの修了者を輩出してきました。修士課程で培った研究を更に発展・深化させる博士後期課程設置が長年嘱望されてきました。文部科学省に対し、6月に博士課程への変更届を提出し、8月30日付で文部科学省ホームページに掲載・受理されました。平成23年4月からの博士後期課程が、入学定員2名、収容定員6名で発足することになりました。

#### (3) 人間社会学部現代社会学科設置の準備

平成23年（2011年）4月設置を目指して、社会人に必要な幅広い知識・技能、企業社会に対する専門的な知識や理論等を修得し活用する人材の育成を教育目的とする、新学科「現代社会学科」の設置準備を進めました。4月に文部科学省に対し、現代社会学科（入学定員100名、編入学定員10名、収容定員420名）設置の届出を行い、6月29日に文部科学省ホームページに掲載・受理されました。

また、平成22年3月に文部科学省に申請を行っていた大学の収容定員増については、6月18日に認可されました。平成23年度から、文学部は国文学科110名、英文学科110名、美学美術史学科90名、人間社会学部人間社会学科は入学定員100名、編入学定員10名、収容定員420名となり、大学全体の収容定員は3,488名（120名増）となります。

#### (4) 新たな教育職員免許課程の認可

生活科学部生活文化学科幼児保育専攻では、小学校教諭免許課程の課程認定申請を行い、平成23年度からの課程が認定されました。これに伴い、生活文化学科幼児保育専攻では、小学校、幼稚園の教諭免許、保育士の資格が取得できることになりました。

また、人間社会学部現代社会学科において、中学校一種（社会）、高等学校一種（公民）の課程認定申請を行い、課程の認定を受けました。

#### (5) 学部・学科の改組・改編の検討推進

学部・学科の改組・改編についての検討を鋭意進めており、6月20日及び8月2日～4日に開いた常任理事会集中討議において、平成24年度に向けての改革、平成26年度高等教

育 2 拠点展開に係る大学・短期大学棟建設等の諸課題、大坂上キャンパス整備計画等を協議しました。生活科学部の改組・改編については、生活科学部長を中心に、学部教員による改革検討を始めました。また、短期大学の 2 拠点化に向けた改革を大学と合同で検討できるように教学中心の改革検討組織を立ち上げる準備をしました。

#### (6) 大学・短期大学教育研究センターの始動

【大学】平成 22 年（2010 年）4 月に設置された大学教育研究センターでは、共通教育科目の運営・点検・改善に係る作業を開始するとともに、学士課程教育の充実・発展に取り組みました。共通教育「オープン講座 a」は、昨年度に引き続き、寄付講座「ブランド経営と CSR」を開講。また、新たに「オープン講座 b」として“「伝統文化の精神とマナー」に学ぶ”を開講し、本学卒業生が講師の中心となって学生の満足度の高い授業を実施しました。

【短期大学】短期大学教育研究センター規程に基づき、短期大学教育の改革・充実にに向けた調査及び企画立案に関する事項、共通教育に係る企画運営、共通教育と専門教育との連携、授業方法研究・支援をテーマに短期大学教育研究センター委員会を 12 回、同センター部会を 26 回開催しました。

#### (7) 新共通教育「実践スタンダード」の推進

平成 21 年（2009 年）度から新共通教育として発足した「実践スタンダード」の 2 年目として、初年次教育、キャリア教育、外国語教育、情報リテラシー教育の充実と展開を図りました。

特に、「キャリア教育科目」区分においては、平成 23 年（2011 年）4 月の大学設置基準及び短期大学設置基準の一部改正に盛り込まれることになった「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培う」方針を先取りして、キャリア教育を積極的に推進しました。大学では、2 年生科目の「キャリアデザイン a」、「同 b」及び「キャリアプランとインターンシップ」を開講しました。

短期大学では、「実践キャリアプランニング」の授業において、SPI 小テストを毎時間課し、学生の問題別理解度をより高めるために、授業の他に 1 年生を対象とした就職支援講座を新たに 10 月から 12 月にかけて 5 回実施しました。また、平成 23 年（2011 年）度から実践アドバンスト科目のキャリア教育科目として新たに「キャリア・スキルズ」を開講することとしました。

大学で助成の申請をしていた文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」については採択されませんでした。構想していた「実践インターンシップルーム」設置については、第 4 館 1 階の「ITS' DEMO」の店舗跡地を利用することになりました。

#### (8) 特別事業計画の推進

大学では、学部・学科・課程の教育改善に資する特別事業計画に基づき、文学部「入学前教育並びに入学後の初期教育」をはじめとする 4 件の活動を行いました。

短期大学では、日本語コミュニケーション学科による「ビジネスコミュニケーションにおける“話す力”のスキルアップ」をはじめとして 6 件特別事業を推進しました。

#### (9) 教学体制の整備

平成 23 年（2011 年）度に向けて、次の項目を中心課題とする教学体制の整備施策を行いました。

①本学の教育展開における三つの方針、即ち「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方

針」及び「入学者受入れの方針」の確立

大学、短期大学とも、9月末にホームページに掲載・公表しました。

② キャップ制、GPA (Grade Point Average) の全学的な採用による履修指導の徹底

【大学】 大学教育研究センターにおいて検討を行い、平成 23 年度から全学的にキャップ制、GPA を導入することとしました。

【短期大学】 FD 推進委員会において検討してきたキャップ制について、平成 23 年度からの導入を決定しました。

③ 拠点化を視野に入れたカリキュラム見直し、開講科目・コマ数の整理と再編成

【大学】 大学教育研究センターにおいて検討し、平成 25 年度改正に向け検討を行いました。

【短期大学】 各学科においてカリキュラムの見直しを含めた開講科目・コマ数の削減について検討を行いました。平成 23 年度から短期大学改革委員会（仮称）を立ち上げ、本短期大学全体のカリキュラム改革を検討して行く準備をしました。

④ 拠点化を視野に入れた意思決定の在り方、組織の見直しについては、常任理事会集中討議で検討しました。

(10) 単位互換制度の推進

【大学・短期大学】

(社)学術文化産業ネットワーク多摩における単位互換制度に大学、短期大学とも参加し、大学は 16 科目、短期大学は 9 科目を開放しましたが他大学の学生の履修はありませんでした。一方大学の学生 2 名が他大学の科目を履修しました。

【短期大学】

東京都私立短期大学協会のすすめる単位互換制度に本学も参画し、他短大から本学開講科目の履修希望があり、1 名が履修しました。

(11) 教職課程、図書館学課程、博物館学課程の充実

【大学】

① 教職課程

教育職員免許法施行規則第 6 条表において「教職実践演習」が新設されたことに伴い、個別に補完的な指導を行う際に必要となる「履修カルテ」を本年度入学者から適用しました。

② 図書館学課程

図書館学省令科目改定（新策定）に対応するとともに、図書館司書の資格の将来を考慮した図書館学課程の科目改正を行い、平成 23 年度から実施します。

③ 博物館学課程

平成 24 年度（2012 年度）に予定されている学芸員養成のための科目改正に向け、平成 23 年度（2011 年度）中に対応を完了すべく、見直しを開始しました。

【短期大学】

平成 23 年度（2011 年度）に立ち上げる予定の短大改革委員会（仮称）が中心となって、大学の教職課程、図書館学課程と連携をとりながら、将来を見据えた課程改革を行うこととしました。

(12) 自己点検・自己評価の推進

【大学】 平成 22 年（2010 年）7 月に、大学基準協会に対して改善報告書を提出しました。

【短期大学】平成18年度の第三者評価で向上・充実の課題とされていた項目について、再点検・評価を実施しました。短期大学基準協会の新基準に基づいた第三者評価を平成25年度に受けるため、自己点検・評価報告書作成のための準備に入りました。

(13) F D活動の積極的な推進

【大学】授業評価について再検討を行い、評価実施に際しては評価の公表を視野に入れた対応を検討しました。また、学内におけるFD活動については、初年次教育、キャリア教育を中心とした対応の推進を図り、10月14日、11月18日、12月2日に研修会を開催しました。

【短期大学】前期末に学生による授業評価アンケートを実施しました。学生の授業評価結果を各教員がどのように受け止め、授業改善に取組むかについてのアンケートを実施し、報告書としてまとめました。後期末にも学生による授業評価アンケートを実施し、報告書を作成しました。また、授業改善の参考となるように大学教育研究センターと短期大学教育研究センターが連携して、FD研修会を実施しました。

(14) 教育情報の公表

【大学・短期大学】学校教育法施行規則の改正により平成23年(2011年)4月から教育情報の公表が義務化されることを受け、平成22年(2010年)12月に学園ホームページに「大学・短期大学の情報公開」として教育情報を公表しました。

(15) 国立美術館及び博物館キャンパスメンバーズ制度の拡大

学校教育において美術館や博物館を有効活用するとともに、美術等に親しむ機会をより豊かにすることを目的として実施されている会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」及び「国立博物館キャンパスメンバーズ」を、大学・短期大学の全学生に拡大しました。大学では、全学生のキャンパスメンバーズ登録を完了しました。短期大学では、学生に「国立美術館キャンパスメンバーズ」及び「国立博物館キャンパスメンバーズ」制度の利用促進を図るため、ホームページ、掲示等でも周知しました。

〔中学校・高等学校〕

(1) 実践スタンダード「3+1」教育の推進と深化

「キャリア教育」、「感性表現教育」及び「国際交流教育」の三つを本校の教育の柱とし、更に、生徒自らのライフデザインを実現し得る高い学力の獲得を目指す「学力改革」を加えた、実践スタンダード「3+1」教育の推進と深化を図りました。

(2) スタンダード実践クラス（一般学級：「SJC」）の教育の充実

中学入学時にきめ細かな指導を実施するため、引き続き中学1年次における少人数クラス編成を行い、生活・学習習慣の確立を推進しました。中学3年生では、従来の修学旅行から語学研修を中心とする校外学習に変更し、GSCとともに、福島県にあるブリティッシュヒルズにおいて異文化体験を行いました。その結果、視野が広がるとともに、英語学習への意欲が一層増しました。

(3) グローバルスタディーズクラス（国際学級：「GSC」）の教育の充実

中学校では英語の3分割習熟度授業による英語力の向上を、また、中学1年の国社数理の4教科の分割授業、中学2年・3年の国数2教科の分割授業によるきめ細やかな教育を継続することで、学力の定着を目指しました。



また、平成 23 年（2011 年）度から高校 1 年で実施する短期留学の準備を進めました。

(4) 中高一貫教育の推進

指導要領の改訂に基づき、新たな教育課程の円滑な実施のための検討と準備を進めました。中高一貫校に相応しい生徒の資質の養成と学力向上に取り組み、高校生への進学指導の充実を図りました。

(5) 校祖学習と校祖顕彰の取り組み

キャリア教育の一環として、中学 1 年次から女子教育の先駆者である校祖に関する学習を進め、中学 2 年次には校祖生誕の地である恵那市岩村町において移動教室を実施しました。

(6) 教員研修の充実

教育全般に係る教員相互の指導力向上のために、教科ごとの研修実施など、教員研修の充実を図っています。4 月の第 1 回の初任者研修に引き続き、8 月に第 2 回初任者研修を、9 月には 10 年次研修を実施しました。また、11 月には公開授業期間を設け、教員相互の授業力を高める取り組みを行うとともに、生徒による授業評価を実施し、それを踏まえた授業力の向上を推進しました。

(7) 渋谷校地再開発に伴う教育活動の維持と円滑な対応

併設大学・短期大学の一部移転に伴う中高施設・設備への影響を検討し、中高教育活動の維持のための適切な取り組みを行いました。特に、第 6 館において活動している校友会や日本文化実習などの活動に支障の出ないように対策を立て、校友会各部は活動場所等の移転を終了し、7 月末より第 6 館の解体を行いました。中学校運動会は、雨天により 2 日間延期して 10 月 11 日に実施。その後、校庭の北側にフェンスが設置され、東ゲートから工事車両が出入して、本格的な新体育館工事が開始されました。

### 3 教育研究活動支援の推進

大学・短期大学の教育研究活動に係る競争的資金への応募、外部資金獲得のための情報収集と提供等の事務支援体制を整えています。また、大学図書館は、諸施策を以て教育研究活動を支援しました。

(1) 教育研究改革の支援と推進

文部科学省が公募する「大学教育・学生支援推進事業」への対応について、教学と事務が情報を共有しながら取り組みを行い、計画書の提出を行いました。採択されませんでした。

その他、大学・短期大学の本年度の研究活動実績として、教員の国外研修（1 名）国内研修（2 名）派遣の実施をはじめ、受託研究 5 件、受託事業 1 件、共同研究 1 件、寄附研究 2 件、科学研究費補助金 12 件の研究を行いました。

(2) 大学・短期大学図書館による支援推進

① 学生選書ツアーの実施

9 月 15 日（水）に千代田区神田神保町にある三省堂書店において、大学（文学部 3 名、生活科学部 2 名、人間社会学部 1 名）の学生 6 名の参加により、第 1 回学生選書ツアーを実施しました。選ばれた 80 冊の図書は、受入等の処理を行い、選書した学生のお薦めコメント（ポップ）とともに図書館内に展示し、貸出を始めました。

② 図書館文化講演会の開催

10月7日(水)に元TBSアナウンサー・青森大学教授・エッセイストの見城美枝子氏を招いて、「幸運の女神は前髪をつかめ～学び続けること～」をテーマに第4回講演会を実施しました。参加者は329名(在学学生240名、一般89名)で「非常に良かった」、「良かった」を合計すると81%にも達し、成功裡に終了しました。なお、終了後一般来場者26名の参加により、図書館見学ツアーを行いました。

#### 4 学生・生徒支援の推進

大学・短期大学学生及び中学校高等学校生徒のキャリア教育及び生活支援のために、以下の課題に重点的に取り組みました。

(1) キャリア教育と「文部科学省大学教育・学生支援推進事業」キャリア支援との連携推進  
実践スタンダード「キャリア教育」の本格始動に合わせ、教学組織の取り組みと連動して、キャリアセンターでは、グループワークによる自己分析・他己分析を実施し、自己への「気づき」を促し、さらにキャリア形成につなげていく支援を行いました。

【大学】文部科学省平成21年(2009年)度大学教育・学生支援推進事業(GP)に採択された「初年次から取組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」として、アラムナイネットワークにおいて、在学学生に対する就職支援サイトを立ち上げました。さらに、共通教育プログラム「実践キャリアプランニング」では卒業生を講師として招聘し、実学的授業を展開しました。また、活躍する卒業生からの応援メッセージとして、「輝く卒業生」のDVDを制作しました。

なお、開催準備をすすめていた「父母セミナー」と「実践アラムナイ総会」は、東日本大震災の被害を重く受け止め、中止しました。

【短期大学】大学と同様に文部科学省平成21年(2009年)度大学教育・学生支援推進事業(GP)に採択された「学習ポートフォリオを活用したキャリア形成支援の重層的展開」事業として、システムの開発・改修を行い、システム構築が完了しました。学生はポートフォリオシステムに蓄積した自分自身の実績を就職活動に活かし、キャリアセンターでは相談業務に活用しました。

システムを使用した学生を対象にアンケート調査を行い、次年度に向けて改善のための検討資料とするとともに、成果報告のパンフレットを作成して、他大学等に配布しました。

(2) 修学就職支援フェアの開催

【大学・短期大学】

平成22年(2010年)7月31日に学生の保護者を対象に修学就職支援フェアを開催しました。大学では324名、短大では83名の保護者・学生が、キャリア教育や就職支援の在り方に関する講演と学科教員との個別修学相談や就職相談などに参加しました。

(3) 給付奨学金制度の継続運営

本学園が平成19年(2007年)度に開始した「教職員奨学資金」を継続して資金の拡充を図り、修学困難な大学生2名(前期1名、後期1名)に給付し、中高生では3名(高校1,2期1名、中学2期1名、3期1名)に奨学金を給付しました。

また、下田奨学金、戸野原須賀子奨学資金、学長賞・校長賞を授与しました。

(4) ボランティア活動支援の推進

【大学】大学では、ネットワーク多摩の「お姉さん先生」、日野市教育委員会からの要請対応、日野市各種イベントへの学生派遣等を行いました。

【短期大学】学生担当が中心となって、ボランティア活動団体からのポスター等を掲示して、学生のボランティア参加を積極的に奨励しました。また、日野市の子育て支援センターと連携を図りながら学生ボランティアを派遣しています。

【中学校高等学校】本年度も引き続き日本青少年赤十字に学校全体で加盟し、ボランティア活動を積極的に推進しました。夏期休業中に高校吹奏楽部が渋谷区の老人ホームを慰問し、中高合唱部は平和まつりに参加して歌声を披露しました。また中高図書員会は9月に青山子ども城で幼児を対象とする「読み聞かせ」の活動を行いました。

#### (5) 障がい学生支援の推進

【大学】様々な障がい（肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい等）を持つ学生の修学を支援する体制を整えましたが、対象学生はいませんでした。

【短期大学】聴覚障がい学生に対する授業保証のため、障がい学生支援WGを教学と事務とで組織し、障がい学生の授業サポートを行いました。授業担当の教員に対して授業配布資料や試験に際しての配慮をお願いするとともに、各授業時にノートテイクを配置しました。また、ノートテイク登録学生を対象に研修と面接指導を行って障がい学生を支援した結果、無事に卒業させることができました。

#### (6) 学生会館における食中毒への対応

【大学・短期大学】平成22年11月12日、学生会館（日野市日野）において食中毒が発生しました。学生会館食堂で提供した食事を原因とするノロウイルスによる食中毒と特定されましたが、12月20日の時点で発症者全員の検体検査結果が陰性となったため、終息宣言を發しました。学生会館食堂は、再発防止策を徹底した後、営業を再開しました。

#### (7) 東北地方太平洋沖地震への対応

平成23年3月11日（金）午後2時46分発生した東北地方太平洋沖地震では、発生当日、その後迅速に対応を行いました。

【大学・短期大学】地震発生当日、大学、短期大学にいた学生、教職員等合計200名が帰宅できなくなったため学内に臨時宿泊しました。早急に被災地域である青森県、岩手県、宮城県、福島県出身者（大学230名、短大45名）及び入学予定者76名についての安否確認等の情報収集を行いました。また、卒業式等の行事の実施、新年度対応、学生の支援策等を検討し、平成22年度卒業式（予定日：大学3月17日、短大3月19日）は中止と決定しましたが、4月の入学式以降は予定どおり実施することとしました。

【中学校高等学校】地震発生当日、中学校高等学校には、400人程の生徒、教職員、卒業生が校舎内に臨時宿泊しました。学校行事の実施について検討した結果、平成22年度中学校卒業式（3月18日に予定）は中止としました。

## 5 国際交流の推進

【大学】平成21年（2009年）4月に交換協定書を更新した韓国・檀国大学校に、本年（2010年）3月、初の学生派遣を実現し、更に、9月にはオランダ・オランダ国立南大学にも初の学生派遣を行いました。現在、第2期学生派遣に向けた留学説明会を終え、募集・選考に向けた準備に入りました。また、1年次修了見込みでの留学や半期（1セメスター）留学を実施すべく、その第一歩として留学規程を改正しました。

【短期大学】平成20年（2008年）度からスタートした英語コミュニケーション学科の専門科目「オーストラリア・ストッツカレッジの春期語学研修」は、今年度も1年生25名が参加

し、2月末に帰国しました。平成23年(2011年)度からスタートするストッツカレッジへの半期留学については、平成22年末に協定締結が完了し、初の学生派遣を目指すべく、英語コミュニケーション学科、短期大学事務部、国際交流センターの三者で具体的なスケジュール調整を行いました。

【中学校・高等学校】高校と教育交流協定を結んでいるタイ・カセサート大学附属高校との短期交換留学で、2名のタイ人留学生が来校(4月～5月)、2名の本校生徒が訪泰。ドイツ・ヒルデガード・ヴェクシャイダー高校より3名のドイツ人留学生が来校(4～5月 1名、10～11月 2名)2名の本校生徒が訪独。イギリス・セントヘレンズ高校から1名の生徒が来校(7月)2名の本校生徒が訪英した。ニュージーランド・オークランドランゲージセンターへは2名の本校生徒が短期語学留学を行いました。

また、夏休みの海外語学研修ではハワイ・マウイ島に27名、オーストラリアに20名、ニュージーランドへ40名の生徒が参加し、10月には中国・内モンゴル自治区より19名の高校生の訪問があり、国際交流教育を積極的に推進しました。

## 6 社会貢献・地域連携等の推進

### (1) 大学・短期大学公開講座の実施

次の通り、公開市民講座を実施しました。

- ①「江戸文学の愉しみ」(5月29日、6月5日) 於、大学本館441教室
- ②「美術史へのいざないー実践女子大学美学美術史学科とブリヂストン美術館とのコラボレーション」(6月27日、7月4日、7月11日) 於、ブリヂストン美術館ホール
- ③「生活の中のアートー「かたち・ふれあい」展の10年ー」(10月23日) 於、短期大学本館302教室
- ④「食と健康ー豊かな熟年に向けてー」(10月30日) 於、大学香雪記念館大教室
- ⑤「観世清和氏と書誌学者・林望氏が語る『源氏物語』と能」(11月6日) 於、大学香雪記念館大教室
- ⑥「子どもの安全のためのデザイン」(11月27日) 於大学本館441教室

【短期大学】短期大学校内各所に造形作品をちりばめる第10回「かたち・ふれあい」展を、10月11日(月)～11月19日(金)に開催しました。多摩地域の作家を中心とする造形作品展を通して地域貢献を行って10回目の節目として、公開市民講座(上記③)を行いました。

### (2) 生涯学習センターによる生涯学習の推進

本学教員による特別講座は、前期4講座、後期7講座を開講し各期100名余の受講がありました。

一般講座の受講状況は、7ジャンル、152講座開設(内、135講座を開講)、受講生2,226名、1講座当たりの受講生16名で、順調な伸びを示しました。

また、21年度後期から実施している作品発表展のミニ版として、「ロビー作品展」を2か月交代で開くこととし、平成23年2,3月に「絵手紙展」を行いました。平成23年度も4,5月の「カリグラフィー」をはじめ六つのロビー作品展を予定しています。

### (3) 香雪記念資料館による企画展示

本年度は、香雪記念資料館の事業として、以下の企画展を開催し、開館日数113日、入館者数は2,768人でした。

- ①「下田歌子展－宮中拝領品と遺品を中心として－」（4/5～4/23）
  - ②「江戸文学の愉しみ」（5/15～6/6）
  - ③「原寸大複製による中国絵画名品展Ⅰ・Ⅱ」（Ⅰ：6/21～7/7、Ⅱ：1/7～1/24）
  - ④「絵巻四天王－頂点を極めろ！－ 博物館実習生による展示」（7/5～8/1・8/15）
  - ⑤「源氏物語をとりまく「美」」（10/12～10/29）
  - ⑥「再発見！明治・大正の女性画家たち 小蘋と青蘭を中心に」（11/13～12/10）
- また、当館の展示室を利用して、以下の展覧会が開催されました。
- ①「美学美術史学科学生作品展」（7/12～8/1・8/15・9/19）
  - ②「エリザベス・ギヤスケル生誕 200 周年記念展」（9/27～10/3）
  - ③「柏木裕美 能面・創作面展～その先を目指して～」（11/8～11/14）
  - ④「「食」の風景－近世の「食」その 1－」（11/19～11/30）

(4) (社)ネットワーク多摩の活動への参画

【大学】(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩との単位互換協定に基づき、25校の協定校と単位互換事業を行いました。また、学生ボランティア事業に学生が参加しました。

【短期大学】単位互換協定に基づき単位互換事業を行うとともに、部会員として参加するなど、各種事業に参画しました。

(5) 特別支援学校の現場実習生受け入れ

大学では、平成 20 年（2008 年）度から実施している東京都立七生特別支援学校の現場実習（インターンシップ）生の受け入れを、本年も 2 回実施し、各 2 名が実習を行いました。

## 7 入試・広報の推進

(1) 中長期を見据えた広報戦略

本学園のステークホルダーに対し、学園の将来構想や設置学校の様々な活動・活躍ぶりを紹介・広報するために、新学園広報誌を 23 年 4 月に創刊する計画の下、誌名を公募して応募 436 通の中から「桜むすび」を選定しました。また、創刊に先立ち、理事長等の熱いメッセージが巻頭を飾る「桜むすび」創刊予告号を 10 月 1 日付で 7 万部発行し、同窓生や元教職員、学園関係者に配布しました。

(2) 自校教育によるブランド力形成

小学館スクウェア、漫画家牧野和子氏の協力の下、学祖下田先生のエピソードに材を取った漫画『きらり うたこ』（構成：160 頁の本編、アルバム、解説、略年譜等）を平成 23 年 3 月に 1 万部刊行しました。本年度卒業生や在学生・在校生全員に配付するとともに、1 千部を市販しました。

(3) 2 拠点化、大学院新課程・大学新学科設置広報の実施

大学・短期大学の 2 拠点化及び人間社会学部現代社会学科を広報するため、6 月 11 日（金）に渋谷エクセル東急において、高等学校、塾・予備校の教員を対象に大学説明会を開催しました。また、新聞、受験雑誌・ガイドブックを中心に 2 拠点化を広報するとともに、学園ホームページに特設サイトを開設して情報提供に努めました。

(4) 地方入試の拡大

7 月から 9 月にかけて、静岡、宇都宮、長野、郡山、仙台、新潟の 6 か所で「実践フェス

タ」を実施し、高校生 50 名、付き添い 35 名が集まりました。学校紹介、在学生のパネルディスカッション等を行い、地方入試をアピールしました。同時開催した在学生保護者への就職関係講演・相談会には、大学 81 名、短大 12 名の父母が参加しました。

平成 23 年 1 月 21 日の I 期入試は、日野校舎のほか、仙台、郡山、宇都宮、高崎、新潟、長野、静岡の各会場で実施し、受験者を増やしました。

## 8 管理運営

学園及び設置学校の管理運営体制を整備し、公共性・透明性の確保に努めるとともに効率的な運営を目指して、以下の課題に取り組みました。

### (1) 管理運営体制の強化

大学、短期大学の 2 拠点展開計画を踏まえ、あわせて直面する重要課題等に対応するため、理事会の管理運営体制を強化することを目的として学園寄附行為の変更を行いました。主な変更内容は、①理事定数の変更（12 人以上 15 人以内）、②新たに副理事長を置く、③常務理事を 1 人以上 3 人以内置くなど。

### (2) 職員人事制度改革

教育・研究支援及び学生・生徒サービスを担う有為な職員を育成するため、引き続き職員人事制度改革に取り組みました。仕事評価制度の導入 2 年目に当たり、新たに担当理事と各部門長が協議し、部門別及び個人別仕事評価シート作成を行いました。なお、10 月の事務組織の一部変更及び人事異動に伴い、関係部署では担当業務の見直しを行い、仕事評価シートの改定を行いました。

### (3) 職員の資質向上のための研修制度の推進

目標管理の共有化、職員の資質向上を目指して、国内外の事務研修、マネジメントセミナーなど、SD 研修を推進しています。SD 研修においては、約 30 名の中堅職員（課長・課長補佐・係長）を対象として、6 月から 9 月までの週末を利用して、合計 4 回にわたって管理職研修を実施しました。マーケティングの手法を活用した本学園の強み・弱み・機会・脅威等の分析を主な内容として、日常のマネジメントを円滑に行うための基本を習得することができました。

### (4) 監査体制の強化

学園における内部統制の有効性を高め、学園のリスク管理、コンプライアンス体制の強化を図るため、公認会計士監査、監事監査及び内部監査の各種機能強化を進めるとともに、三者間の有機的な連携強化を図りました。

### (5) 学園史資料室の充実

学園の教育・研究活動の成果や活動の軌跡の証となる史・資料を一元的に収集・保管・管理し、社会に提供する機能を充実しました。オーラル・ヒストリー（第 3 回）の一環として、5 月に大矢登志子氏（専門学校国文科昭和 10 年卒）を訪問面談し、聞き取りを行いました。また、7 月 10 日（土）に開催された飯塚前学長による叙勲記念講演「下田歌子先生を顕彰する－実践女学校設立の決意－」の記録も資料に加えしました。

### (6) 学園附置施設の在り方の検討

常任理事会集中討議において、大学の使命の一つである社会貢献を一層促進するために、生

涯学習センターの大学附置施設移行は喫緊の課題であり、センター機能の充実、現在生涯学習センターが入っている駅前ビルの活用、他施設への転用や売却も含めて、多角的に検討していくことを確認しました。

#### (7) 学園関係者の表彰について

平成 22 年春の叙勲にて飯塚幸子前実践女子大学・短期大学学長が瑞宝中綬章を、秋の叙勲にて澤井勇元実践女子学園理事長が旭日中綬章を受章され、それぞれ叙勲を祝う会を開催しました。

実践女子大学名誉教授の称号を、文学部 澤井勇氏、生活科学部 春山文子氏に授与しました。

本学園に多年にわたる高額寄付をされている方 32 名を招待し名誉称号贈呈式を開催し、名誉賛助員 1 名、賛助員 31 名の名誉称号を贈呈しました。

## 9 情報インフラの整備

情報インフラ整備では、以下の項目について、計画を遂行しました。

- (1) 短期大学 情報ラウンジ・第 1～3 演習室システム更新
- (2) 大学 3 館 313 教室の Mac パソコン 41 台、情報ラウンジの Mac パソコン 3 台の更新
- (3) 中学・高等学校桃天館 CAI 教室、CAL 教室、キャリア学習室、キャリアカウンセリング室、プレゼンテーションルーム、多目的室に合計 145 台のパソコン端末を設置
- (4) 中高職員室システムの更新、100 台のノートパソコン端末を教員用端末として設置
- (5) 電子メールシステムの変更を行い、Google 社提供の G-Mail の利用開始
- (6) 基幹システムに 24 ポートのスイッチ追加
- (7) 外部向け DNS サーバのアウトソーシング
- (8) サイボウズサーバの更新
- (9) ウェブサーバ（ハード）の更新
- (10) 大学 第 4 館ネットワーク機器スイッチの更新
- (11) 大学・短期大学教育支援体制の継続－学習支援を行う e ラーニングシステム (manaba) の運用－についての機能充実
- (12) IT 関連の個人 情報に係る危機管理体制の充実、各種バージョンアップ
- (13) データバックアップ体制強化を平成 23 年度予算申請に盛り込む準備を進める

## 10 地球温暖化対策の推進

平成 22 年 3 月に制定した「実践女子学園におけるエネルギーの使用の合理化に関する規程」に基づき、次のとおり本学園の地球温暖化対策を推進しました。なお、CO2 排出削減に大きく寄与する電気式高効率熱源機を導入した本学は、「蓄熱のつどい」（7 月 15 日開催）において(財)ヒートポンプ・蓄熱センターから特別感謝状を授与されました。

- ・エネルギー使用状況届出書を提出（平成 22 年 7 月末）
- ・エネルギー管理標準作成のため設備台帳の作成、調査に着手（9 月）
- ・エネルギー特定事業者として指定を受ける。（10 月 1 日）
- ・エネルギー管理統括者及びエネルギー管理企画推進者選任届出書を提出（11 月 5 日）
- ・定期報告書及び中長期計画書提出（11 月末）

## 11 施設設備の改修・更新等

学園の施設設備を維持し有効活用するために、経年劣化等に対処する必要な改修・更新

等を行いました。

〔大学〕大坂上キャンパス

- (1) 100周年記念建物（香雪記念館、桜ホール、事務センター他）の外壁修繕工事
- (2) 本館及び体育館の外壁修繕計画の策定（外壁調査、修繕計画立案）
- (3) 非常放送設備及び自動火災報知機排煙設備改修工事
- (4) 体育館屋根修繕工事
- (5) 本館エレベータ改修工事
- (6) 第1館学生用トイレ改修（洋式化）工事

〔短期大学〕神明キャンパス

- (1) 本館屋上防水修繕工事
- (2) 第2館調理実習室改修工事

〔中学校・高等学校〕渋谷キャンパス

- (1) 第3館1階床の修繕工事
- (2) 第3館教室扉の修繕工事
- (3) 第6館諸室の移転先整備工事
- (4) 第1館トイレ改修（洋式化）工事

〔学園〕

- (1) 軽井沢実習所の屋根塗装

## 1.2 卒業生向け活動の推進

卒業生と母校との絆を深める行事として、第12回ホームカミングデーを2キャンパスで開催しました。

- (1) 渋谷キャンパスにおいて、10月31日（日）に約100名の卒業生、元教職員及び学園関係者の出席を得て盛況裡に行われました。
- (2) 日野・大坂上キャンパスでは、11月13日（土）にフードコーディネーター青木敦子氏（短大卒業生）による講演等を中心に開催し、約200名の参加がありました。

## 1.3 創立120周年整備事業の推進

学園創立120周年に向けて本学園が取り組む整備事業については、理事会において以下の事業の計画大要を決定しました。

建築計画の初年度として7月から、渋谷中学校高等学校新体育館の建設予定地にある既存の第6館・プール・テニスコート等を解体しました。12月6日に地鎮祭を行い、平成23年1月から新体育館の工事を開始しました。

また、1期渋谷校地整備計画の進行に並行して、2期大坂上校地・神明校地整備計画の基本構想の策定に入りました。

### ＜ 創立120周年整備事業計画の大要 ＞

#### ○ 整備事業の基本的考え方

創立120周年を平成31年（2019年）5月に迎えるにあたり、学園としての社会的責任を果たすため、教育・研究体制を整えるとともに、「長期的展望に立脚した渋谷校地と日野大坂上校地の2拠点化」を大きな柱として、整備事業に取り組む。

#### ○ 整備事業の計画項目

##### 【創立120周年整備事業1期渋谷校地整備計画】

- ① 中学校高等学校新体育館の建設〔第1期計画事業〕（平成22年度～23年度）
- ② 大学・短期大学棟の建設〔第1期計画事業〕（平成23年度～25年度）



【創立 120 周年整備事業 2 期大坂上校地・神明校地整備計画（仮称）】

③ 日野大坂上校地・神明校地の整備〔第 2 期計画事業〕（平成 26 年度～27 年度）

【創立 120 周年整備事業募金】

④ 創立 120 周年整備事業募金の実施（平成 22 年度～26 年度）

○ 1 期建設関係記念事業に係わる事業費総額と資金計画

① 事業費総額	87 億円
② 資金計画	
施設設備維持引当特定資産	26 億円
第 2 号基本金引当資産	29 億円
長期借入金	28 億円
寄付金	4 億円
(合計)	87 億円

## 1 4 財務計画

### (1) 財政状況の改善

創立 120 周年整備事業の実施とともに、財政状況の目標値の設定及び改善施策の策定を行い、経常収支差額を適正に維持するため、財政上及び教育研究効果を測定、学園経営の改善を図りました。

### (2) 募金計画

実践女子学園奨学基金拡充募金に継続して取り組み、さらに教職員奨学資金について学園教職員の協力を仰ぎ継続的な募金活動を行いました。

また、井原理事長を募金委員長とする学園創立 120 周年記念 1 期整備計画募金を、平成 23 年 4 月から 27 年 3 月までの 4 年間、募金目論見額 4 億 4 千万円、募金目標額 4 億円として実施することとし、平成 22 年 11 月 10 日に第 1 回の募金委員会・募金実行委員会の合同委員会を開催しました。平成 23 年 2 月 16 日に第 2 回募金実行委員会を開催し、ゼネラルパンフレットの作成を協議し募金活動を開始しました。なお、3 月 11 日の震災の影響に配慮し、同窓生や関係者等への募金活動の周知は一時延期することとしました。

### (3) 第 2 号基本金引当資産の積立

学園将来構想実現に向けた事業財源確保のため、引き続き「創立 120 周年整備事業資金」を積み立てました。

### (4) 第 3 号基本金の積立

現在の金融状況下、第 3 号基本金運用収入が減少する傾向にあるため、奨学基金を継続して積み立てました。

## 1 5 主な事業活動実績

### ■ 行事・式典等

平成 22 年 4 月 4 日	<input type="checkbox"/> 短期大学入学式
平成 22 年 4 月 5 日	<input type="checkbox"/> 大学入学式
平成 22 年 4 月 7 日	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校入学式
平成 22 年 5 月 24 日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学オープンキャンパス開始(23 年 3 月まで 8 回開催)
平成 22 年 6 月 19 日	<input type="checkbox"/> 中学校オープンスクール開始

平成22年 7月 10日	<input type="checkbox"/> 実践フェスタ2010開始（静岡、以下9月5日新潟まで6か所で開催）
平成22年 7月 31日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学修学就職支援フェア
平成22年 9月 19日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学卒業式
平成22年 10月 8日	<input type="checkbox"/> 学祖下田歌子命日 墓前祭
平成22年 10月 30日	<input type="checkbox"/> 中学校高等学校ときわ祭（10月30日、31日）
平成22年 10月 31日	<input type="checkbox"/> 第12回ホームカミングデー（渋谷キャンパス）
平成22年 11月 13日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学常磐祭（～14日）
平成22年 11月 13日	<input type="checkbox"/> 第12回ホームカミングデー（日野大坂上キャンパス）
平成23年 1月 21日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学一般入学試験Ⅰ期（試験会場：日野、仙台、郡山、宇都宮、高崎、新潟、長野、静岡） （Ⅱ期2月2日3日、5日、Ⅲ期3月6日）
平成23年 2月 1日	<input type="checkbox"/> 中学校入学試験（～4日）
平成23年 3月 3日	<input type="checkbox"/> 高等学校卒業式
平成23年 3月 17日	<input type="checkbox"/> 大学卒業式（中止）
平成23年 3月 18日	<input type="checkbox"/> 中学校卒業式（中止）
平成23年 3月 19日	<input type="checkbox"/> 短期大学卒業式（中止）

#### ■ 建学の精神の高揚—学祖下田歌子顕彰事業

岐阜県恵那市先人顕彰事業、連携協定	<input type="checkbox"/> 恵那市、本学園等主催「第8回下田歌子賞」表彰（11月27日） <input type="checkbox"/> 本学園と恵那市との連携協定締結（11月27日）
法要、墓参	<input type="checkbox"/> 下田歌子先生73回忌法要、墓参（6月12日、13日）
『源氏物語』関係展示、公開講座等	<input type="checkbox"/> 「源氏物語 薄雲の世界—新出資料を中心に—」（5月24日～6月21日） <input type="checkbox"/> 公開講座「源氏物語と能」（11月6日）

#### ■ 教育・研究関連

<大学院・大学・短期大学>

大学収容定員増の認可申請	<input type="checkbox"/> 大学収容定員増認可申請（平成22年3月30日申請） 平成22年6月18日収容定員増認可
人間社会学部現代社会学科設置届出	<input type="checkbox"/> 人間社会学部現代社会学科設置届出（平成23年4月末届出） 平成22年6月29日学科設置届出受理
大学院文学研究科美術史学専攻博士課程届出	<input type="checkbox"/> 大学院文学研究科美術史学専攻課程変更届出（平成22年6月末届出） 平成22年8月30日学科設置届出受理
大学・短期大学将来構想	<input type="checkbox"/> 短期大学収容定員変更（生活福祉学科学生募集停止）届出（平成22年7月31日届出）
大学・短期大学新共通教育カリキュラムの開設	<input type="checkbox"/> 新共通教育カリキュラム（実践スタンダード科目、アドバンスト科目、教養教育科目）の展開
大学・短期大学教育研究センター設置	<input type="checkbox"/> 大学教育研究センター（平成22年4月設置） <input type="checkbox"/> 短期大学教育研究センター（平成22年4月設置）
新たな資格、免許課程の認定	<input type="checkbox"/> 生活文化学科幼児保育専攻に小学校教諭一種免許状課程認定（平成23年1月28日認定） <input type="checkbox"/> 人間社会学部人間社会学科、現代社会学科 中高教諭一種免許状課程認定（平成23年1月28日認定）

公的教育資金の獲得	<input type="checkbox"/> 文部科学省平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業の継続実施 大学：「初年次から取組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」 短期大学：「学習ポートフォリオを活用したキャリア形成支援の重層的展開」
公的研究資金の獲得	<input type="checkbox"/> 科学研究費補助金「英語スピーキング能力の測定と評価法の研究」他 8 件

### ■ 学生・生徒支援

奨学金制度の拡充	<input type="checkbox"/> 教職員奨学資金給付：大学生 2 名、中学生 2 名、高校生 1 名
学長賞・校長賞等奨励賞授与	<input type="checkbox"/> 学長賞[平成 22 年 4 月入学式]、校長賞 [平成 23 年 3 月卒業式]
災害対応	<input type="checkbox"/> 受験生の検定料免除等 (1 名)
学生会館食中毒事故対策	<input type="checkbox"/> 学生会館にて食中毒発生 (11 月) <input type="checkbox"/> 食中毒後の対策実施
東北地方太平洋沖地震対策	<input type="checkbox"/> 東北地方太平洋沖地震発生 (平成 23 年 3 月 11 日) <input type="checkbox"/> 被災学生学費減免措置等対応策策定

### ■ 国際交流活動

#### <大学院・大学・短期大学>

協定校・派遣留学生受入れ	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 前期 2 名 後期 2 名 <input type="checkbox"/> 中国・中国伝媒大学 後期 6 名 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 後期 1 名 <input type="checkbox"/> カナダ・フレーザーバレー大学 後期 1 名
協定校・交換留学生派遣	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 交換協定校留学 2 名
語学研修プログラム (夏期)	<input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 <input type="checkbox"/> アメリカ・ワシントン大学 <input type="checkbox"/> カナダ・フレーザーバレー大学 合計 40 名 (大学・短期大学)
語学研修プログラム (春期)	<input type="checkbox"/> オーストラリア・ストッツカレッジ 25 名 (短期大学英語コミュニケーション学科)

#### <中学校高等学校>

協定校・派遣留学生受入れ	<input type="checkbox"/> タイ・国立カセサート大学付属高等学校 2 名 <input type="checkbox"/> ドイツ・ヒルデガルドウェグシャイダー高等学校 3 名 <input type="checkbox"/> イギリス・セントヘレンズ高等学校 1 名
協定校留学生派遣 (短期)	<input type="checkbox"/> タイ・国立カセサート大学付属高等学校 2 名 <input type="checkbox"/> ドイツ・ヒルデガルドウェグシャイダー高等学校 2 名 <input type="checkbox"/> イギリス・セントヘレンズ高等学校 2 名
奨学制度留学生派遣	<input type="checkbox"/> ニュージーランド・オークランド語学学校 2 名

### ■ 管理・運営

寄附行為変更	<input type="checkbox"/> 副理事長制、常務理事 3 名等 寄附行為変更申請 (平成 22 年 6 月申請) (平成 22 年 9 月 27 日認可) 常務理事 2 人体制
--------	---

職員の資質向上のための研修の実施	<input type="checkbox"/> 中間管理職職研修：マネジメント人材育成 (7月3日、8月8日、9月4日・5日) <input type="checkbox"/> 全職員研修：課題解決と業務整理 (8月7日) <input type="checkbox"/> 学校会計研修：(8月25日、9月8日)
常任理事集中討議の実施	<input type="checkbox"/> 常任理事会集中討議：将来構想について (6月、8月)
内部監査の実施	<input type="checkbox"/> 公的研究資金監査の実施[平成22年7月、11月] <input type="checkbox"/> 業務改善に関する実態調査及びヒアリング
三様監査連絡会の実施	<input type="checkbox"/> 連絡会協議事項：科学研究費補助金監査 公認会計士監査気付き事項改善、自己点検・評価 他[平成22年9月9日] <input type="checkbox"/> 連絡会協議事項：科学研究費補助金監査、公認会計士監査気付き事項改善、自己点検・評価進捗、教育情報の公開状況 他[平成23年1月]
諸規程の整備	<input type="checkbox"/> 実践女子学園薬品等管理規程 <input type="checkbox"/> 実践女子短期大学における任期を定めた専任教員の任用に関する規程 <input type="checkbox"/> 校友会特殊部費預り金取扱い細則
安全対策	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校において防災訓練実施 <input type="checkbox"/> 短期大学において避難訓練実施 <input type="checkbox"/> 応急救護講習会の実施
環境問題への取組み	<input type="checkbox"/> 財ヒートポンプ・蓄熱センターから特別感謝状を授与 (7月15日開催)
組織の設置	<input type="checkbox"/> 将来構想実施準備室の廃止 (9月30日)

1 6 参考資料

2011 年度入学試験結果 (大学)

実践女子大学 2011年度 入試結果

(一般入試)

【Ⅰ期(地方入試)】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	30	180	180	62	2.9
	英文学科	110	25	196	196	128	1.5
	美学美術史学科	90	20	65	64	52	1.2
	計	310	75	441	439	242	1.8
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	10	217	217	32	6.8
	食生活科学科 食物科学専攻	75	12	71	71	34	2.1
	生活環境学科	80	20	124	122	56	2.2
	生活文化学科 生活文化専攻	40	10	27	27	19	1.4
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	10	111	110	11	10.0
	計	310	62	550	547	152	3.6
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	30	302	298	158	1.9
	計	200	30	302	298	158	1.9
合計		820	167	1,293	1,284	562	2.3

【Ⅱ期3科目型】※募集人員はⅡ期2科目型と合わせた人数

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	15	32	26	16	1.6
	英文学科	110	15	20	17	13	1.3
	美学美術史学科	90	10	13	9	7	1.3
	計	310	40	65	52	36	1.4
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	24	102	96	24	4.0
	食生活科学科 食物科学専攻	75	20	23	20	21	1.8
	生活環境学科	80	10	21	16	7	2.3
	生活文化学科 生活文化専攻	40	10	10	6	11	1.5
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	10	21	19	8	2.4
	計	310	74	177	157	71	2.2
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	28	72	62	36	1.7
	計	200	28	72	62	36	1.7
合計		820	142	314	271	143	1.9

注①: 第2志望合格者含む(管理栄養士専攻から10名)

注②: 第2志望合格者含む(幼児保育専攻から7名)

【Ⅱ期2科目型】※募集人員はⅡ期3科目型と合わせた人数

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	15	51	43	16	2.7
	英文学科	110	15	44	31	22	1.4
	美学美術史学科	90	10	21	15	12	1.3
	計	310	40	116	89	50	1.8
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	24	171	156	24	6.5
	食生活科学科 食物科学専攻	75	20	64	54	37	1.5
	生活環境学科	80	10	17	11	7	1.6
	生活文化学科 生活文化専攻	40	10	9	8	10	2.0
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	10	36	35	4	8.8
	計	310	74	297	264	82	3.2
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	28	78	67	38	1.8
	計	200	28	78	67	38	1.8
合計		820	142	491	420	170	2.5

注①: 第2志望合格者含む(幼児保育専攻から6名)

【Ⅲ期】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	10	77	58	34	1.7
	英文学科	110	5	47	37	13	2.8
	美学美術史学科	90	5	17	13	11	1.2
	計	310	20	141	108	58	1.9
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	2	33	30	2	15.0
	食生活科学科 食物科学専攻	75	2	22	17	2	8.5
	生活環境学科	80	5	22	18	8	2.3
	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	40	33	29	1.2
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	2	18	12	4	3.0
	計	310	13	135	110	45	2.4
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	10	87	65	29	2.2
	計	200	10	87	65	29	2.2
合計		820	43	363	283	132	2.1

注①: 第2志望合格者含む(幼児保育専攻から2名)

(センター試験利用入試)

【Ⅰ期】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=志願者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	15	206	-	70	2.9
	英文学科	110	16	280	-	210	1.3
	美学美術史学科	90	15	114	-	92	1.2
	計	310	46	600	-	372	1.6
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	6	199	-	52	3.8
	食生活科学科 食物科学専攻	75	8	155	-	84	1.8
	生活環境学科	80	10	97	-	41	2.4
	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	22	-	11	2.0
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	3	45	-	3	15.0
	計	310	29	518	-	191	2.7
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	25	292	-	174	1.7
	計	200	25	292	-	174	1.7
合計		820	100	1,410	-	737	1.9

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=志願者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	10	69	-	63	1.3
	英文学科	110	5	81	-	24	3.4
	美学美術史学科	90	5	23	-	17	1.4
	計	310	20	173	-	94	1.8
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	2	8	-	2	4.0
	食生活科学科 食物科学専攻	75	3	17	-	3	5.7
	生活環境学科	80	5	19	-	7	2.7
	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	25	-	21	1.2
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	2	8	-	4	2.0
	計	310	14	77	-	37	2.1
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	10	84	-	42	2.0
	計	200	10	84	-	42	2.0
合計		820	44	334	-	173	1.9

\*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

(公募推薦入試)

【Ⅰ期】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	3	3	0	-
	英文学科	110	5	2	2	2	1.0
	美学美術史学科	90	2	1	1	1	1.0
	計	310	12	6	6	3	2.0
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	3	13	13	5	2.6
	食生活科学科 食物科学専攻	75	7	9	9	7	1.3
	生活環境学科	80	6	7	7	7	1.0
	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	1	1	1	1.0
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	2	15	15	5	3.0
	計	310	20	45	45	25	1.8
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	8	9	9	8	1.1
	計	200	8	9	9	8	1.1
合計		820	40	60	60	36	1.7

【Ⅱ期】

学部	学部・学科・専攻	入学定員	募集人員	倍率=受験者/合格者			
				志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	4	4	1	4.0
	英文学科	110	5	1	1	1	1.0
	美学美術史学科	90	2	1	1	1	1.0
	計	310	12	6	6	3	2.0
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	2	10	10	4	2.5
	食生活科学科 食物科学専攻	75	3	4	4	2	2.0
	生活環境学科	80	2	1	1	1	1.0
	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	2	2	2	1.0
	生活文化学科 幼児保育専攻	45	2	2	2	2	1.0
	計	310	11	19	19	11	1.7
人間社会学部/現代社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	4	5	4	4	1.0
	計	200	4	5	4	4	1.0
合計		820	27	30	29	18	1.6

《卒業生・在学生子女推薦入試》

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	1	0	0	0
	英文学科	110	2	0	0	0
	美学美術史学科	90	1	0	0	0
計		310	4	0	0	0
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	1	0	0
		食物科学専攻	75	2	0	0
	生活環境学科	80	1	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	1	0	0
		幼児保育専攻	45	1	0	0
計		310	6	0	0	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	4	0	0	
	計	200	4	0	0	
合計		820	14	0	0	

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ期を合わせた人数

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-
	英文学科	110	10	4	3	3	3
	美学美術史学科	90	15	12	12	12	12
	計	310	30	16	15	15	15
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	53	4	4
		食物科学専攻	75	5	10	5	5
	生活環境学科	80	10	16	16	16	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	3	3	3
		幼児保育専攻	45	4	20	9	9
計		310	27	102	37	37	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	7	-	-	-	-
	計	200	7	-	-	-	
合計		820	64	118	52	52	

【Ⅰ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	17	8	8	8
	英文学科	110	10	6	2	2	2
	美学美術史学科	90	15	-	-	-	-
	計	310	30	23	10	10	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-
	生活環境学科	80	10	-	-	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	4	2	2
		幼児保育専攻	45	4	5	3	3
計		310	27	9	5	5	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	7	-	-	-	
	計	200	7	-	-	-	
合計		820	64	32	15	15	

【Ⅱ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-
	英文学科	110	10	-	-	-	-
	美学美術史学科	90	15	8	8	8	
	計	310	30	8	8	8	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-
	生活環境学科	80	10	3	3	3	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	-	-	-
		幼児保育専攻	45	4	-	-	-
計		310	27	3	3	3	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	7	15	6	6	
	計	200	7	15	6	6	
合計		820	64	26	17	17	

【Ⅲ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-
	英文学科	110	10	-	-	-	-
	美学美術史学科	90	15	8	8	8	
	計	310	30	8	8	8	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-
	生活環境学科	80	10	3	3	3	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	-	-	-
		幼児保育専攻	45	4	-	-	-
計		310	27	3	3	3	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	7	15	6	6	
	計	200	7	15	6	6	
合計		820	64	26	17	17	

《特別選抜入試》

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	0
	英文学科	110	若干名	0	0	0
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	0
計		310	-	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	1	1
		食物科学専攻	75	若干名	1	1
	生活環境学科	80	若干名	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	0
		幼児保育専攻	45	若干名	0	0
計		310	-	2	2	
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	若干名	0	0	
	計	200	-	0	0	
合計		820	-	2	2	

【社会人入試】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	
	英文学科	110	若干名	0	0	
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	
	計	310	-	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	0	
		食物科学専攻	75	若干名	0	
	生活環境学科	80	若干名	0		
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	
		幼児保育専攻	45	若干名	0	
計		310	-	0		
人間社会学部	人間社会学科/現代社会学科	200	若干名	0		
	計	200	-	0		
合計		820	-	0		

# 2011年度入学試験結果 (短期大学)

## 実践女子短期大学 2011年度 入試結果

(一般入試)

倍率=受験者/合格者

【I期2科目型】※募集人員はI期1科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	15	5	4	4	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	5	5	注① 6	1.0
			国際コミュニケーションコース	7	7	注② 8	1.0
計	220	30	17	16	18	1.0	
食物栄養学科	80	5	13	13	6	2.2	
計	80	5	13	13	6	2.2	
合計	300	35	30	29	24	1.2	

注①: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から1名)

注②: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から1名)

【I期1科目型】※募集人員はI期2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	15	15	14	注① 18	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	1	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	5	5	5	1.0
計	220	30	21	20	24	1.0	
食物栄養学科	80	5	28	28	13	2.2	
計	80	5	28	28	13	2.2	
合計	300	35	49	48	37	1.3	

注①: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から4名)

【II期2科目型】※募集人員はII期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	10	5	4	4	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	10	観光ビジネスコース	3	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	4	2	2	1.0
計	220	20	12	6	6	1.0	
食物栄養学科	80	13	13	7	2	3.5	
計	80	13	13	7	2	3.5	
合計	300	33	25	13	8	1.6	

【II期1科目型】※募集人員はII期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	10	5	3	7	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	10	観光ビジネスコース	3	3	3	1.0
			国際コミュニケーションコース	2	1	1	1.0
計	220	20	10	7	11	1.0	
食物栄養学科	80	13	37	29	9	3.2	
計	80	13	37	29	9	3.2	
合計	300	33	47	36	20	1.8	

注①: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から4名)

【III期センター併用3科目型】※募集人員はIII期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	10	3	3	3	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	10	観光ビジネスコース	2	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-
計	220	20	5	3	3	1.0	
食物栄養学科	80	13	3	1	1	1.0	
計	80	13	3	1	1	1.0	
合計	300	33	8	4	4	1.0	

【III期センター併用2科目型】※募集人員はIII期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	10	2	1	1	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	10	観光ビジネスコース	1	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-
計	220	20	3	2	2	1.0	
食物栄養学科	80	13	13	12	7	1.7	
計	80	13	13	12	7	1.7	
合計	300	33	16	14	9	1.6	

【III期2科目型】※募集人員はIII期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	0	0	0	-	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	1	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	3	2	2	1.0
計	220	10	4	2	2	1.0	
食物栄養学科	80	3	5	4	1	4.0	
計	80	3	5	4	1	4.0	
合計	300	13	9	6	3	2.0	

【III期1科目型】※募集人員はIII期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	15	13	注① 15	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	2	2	注② 3	1.0
			国際コミュニケーションコース	1	1	注③ 2	1.0
計	220	10	18	16	20	1.0	
食物栄養学科	80	3	27	22	9	2.4	
計	80	3	27	22	9	2.4	
合計	300	13	45	38	29	1.3	

注①: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から2名)

注②: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から1名)

注③: 第2志望合格者含む(食物栄養学科から1名)

【III期センター併用3科目型】※募集人員はIII期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	0	0	0	-	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	0	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-
計	220	10	0	0	0	-	
食物栄養学科	80	3	0	0	0	-	
計	80	3	0	0	0	-	
合計	300	13	0	0	0	-	

【III期センター併用2科目型】※募集人員はIII期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	2	2	2	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	0	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-
計	220	10	2	2	2	1.0	
食物栄養学科	80	3	4	3	1	3.0	
計	80	3	4	3	1	3.0	
合計	300	13	6	5	3	1.7	

【センター試験利用入試】

倍率=志願者/合格者

【I期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試I期1科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	5	-	5	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	8	観光ビジネスコース	13	-	13	1.0
			国際コミュニケーションコース	8	-	8	1.0
計	220	13	26	-	26	1.0	
食物栄養学科	80	5	39	-	10	3.9	
計	80	5	39	-	10	3.9	
合計	300	18	65	-	36	1.8	

【I期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試I期2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	11	-	11	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	8	観光ビジネスコース	1	-	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	3	-	3	1.0
計	220	13	15	-	15	1.0	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合計	300	13	15	-	15	1.0	

【II期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試II期1科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	7	-	7	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	3	-	3	1.0
			国際コミュニケーションコース	1	-	1	1.0
計	220	10	11	-	11	1.0	
食物栄養学科	80	3	15	-	10	1.5	
計	80	3	15	-	10	1.5	
合計	300	13	26	-	21	1.2	

【II期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試II期2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	8	-	8	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	0	-	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	-	0	-
計	220	10	8	-	8	1.0	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合計	300	10	8	-	8	1.0	

【III期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試III期1科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	3	-	3	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	5	-	5	1.0
			国際コミュニケーションコース	9	-	9	1.0
計	220	10	17	-	17	1.0	
食物栄養学科	80	2	11	-	4	2.8	
計	80	2	11	-	4	2.8	
合計	300	12	28	-	21	1.3	

【III期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試III期2科目型と合わせた人数

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	5	7	-	7	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	5	観光ビジネスコース	1	-	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	1	-	1	1.0
計	220	10	9	-	9	1.0	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合計	300	10	9	-	9	1.0	

《公募推薦入試》

【Ⅰ期】 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	10	1	1	1	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	10	観光ビジネスコース	4	4	4	1.0
国際コミュニケーションコース			0	0	0	-	
計	220	20	5	5	5	1.0	
食物栄養学科	80	15	32	32	32	1.0	
計	80	15	32	32	32	1.0	
合計	300	35	37	37	37	1.0	

【Ⅱ期】 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	100	3	1	1	1	1.0	
英語コミュニケーション学科	120	3	観光ビジネスコース	1	1	1	1.0
国際コミュニケーションコース			1	1	1	1.0	
計	220	6	3	3	3	1.0	
食物栄養学科	80	3	9	9	9	1.0	
計	80	3	9	9	9	1.0	
合計	300	9	12	12	12	1.0	

《卒業生・在学生子女推薦入試》

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	100	2	0	0	0	
英語コミュニケーション学科	120	2	観光ビジネスコース	1	1	1
国際コミュニケーションコース			0	0	0	
計	220	4	1	1	1	
食物栄養学科	80	2	2	2	2	
計	80	2	2	2	2	
合計	300	6	3	3	3	

《専門課程推薦入試》

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	100	-	-	-	-	
英語コミュニケーション学科	120	-	観光ビジネスコース	-	-	-
国際コミュニケーションコース			-	-	-	
計	220	-	-	-	-	
食物栄養学科	80	3	2	2	2	
計	80	3	2	2	2	
合計	300	3	2	2	2	

《自己推薦入試》 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	100	2	3	3	3	1.0
英語コミュニケーション学科	120	3	観光ビジネスコース	0	0	0
国際コミュニケーションコース			1	1	1	1.0
計	220	5	4	4	4	1.0
食物栄養学科	80	1	7	7	3	2.3
計	80	1	7	7	3	2.3
合計	300	6	11	11	7	1.6

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ期を合わせた人数

【Ⅰ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	I/II期者数	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	15	6	5	5	5
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	4	3	3
国際コミュニケーションコース			2	2	2	
計	220	30	12	10	10	10
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-
合計	300	30	12	10	10	10

【Ⅱ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	I/II期者数	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	15	3	3	3	3
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	3	2	2
国際コミュニケーションコース			0	0	0	
計	220	30	6	5	5	5
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-
合計	300	30	6	5	5	5

【Ⅲ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	I/II期者数	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	15	4	4	4	4
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	4	3	3
国際コミュニケーションコース			3	3	3	
計	220	30	11	10	10	10
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-
合計	300	30	11	10	10	10

【Ⅳ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	I/II期者数	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	15	1	1	1	1
英語コミュニケーション学科	120	15	観光ビジネスコース	0	0	0
国際コミュニケーションコース			2	1	1	
計	220	30	3	2	2	2
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-
合計	300	30	3	2	2	2

《特別選抜入試》

【海外帰国子女入試】

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	若干名	0	0	0
英語コミュニケーション学科	120	若干名	観光ビジネスコース	0	0
国際コミュニケーションコース			0	0	
計	220	-	0	0	0
食物栄養学科	80	若干名	0	0	0
計	160	-	0	0	0
合計	380	-	0	0	0

【社会人入試】

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
日本語コミュニケーション学科	100	若干名	0	0	0
英語コミュニケーション学科	120	若干名	観光ビジネスコース	0	0
国際コミュニケーションコース			0	0	
計	220	-	0	0	0
食物栄養学科	80	若干名	1	1	1
計	160	-	1	1	1
合計	380	-	1	1	1



2011 年度入学試験結果 (大学：編入学)

実践女子大学(編入学) 2011年度 入試結果

(編入学試験)

【一般編入学 / I 期】※募集人員は一般編入学 I 期・II 期を合わせた人数(人間社会学科を除く)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	15	5	0	0	0
	英文学科	15	5	4	4	4
	美学美術史学科	10	4	1	1	1
	計	40	14	5	5	5
生活科学部	食生活科学科 食物科学専攻	5	3	2	1	0
	生活環境学科	10	6	3	3	2
	生活文化学科 生活文化専攻	10	4	1	1	1
	生活文化学科 幼児保育専攻	5	若干名	1	1	0
	計	30	-	7	6	3
学社人部会館	人間社会学科	20	5	4	4	4
	計	20	5	4	4	4
合計		90	-	16	15	12

【内部編入学】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	15	10	7	7	7
	英文学科	15	10	5	5	5
	美学美術史学科	10	6	0	0	0
	計	40	26	12	12	12
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	14	若干名	1	1	1
	食生活科学科 食物科学専攻	5	2	2	2	2
	生活環境学科	10	4	4	4	4
	生活文化学科 生活文化専攻	10	6	6	6	6
	生活文化学科 幼児保育専攻	5	若干名	0	0	0
計	44	-	13	13	13	
学社人部会館	人間社会学科	20	10	6	6	6
	計	20	10	6	6	6
合計		104	-	31	31	31

【一般編入学 / II 期】※募集人員は一般編入学 I 期・II 期を合わせた人数(人間社会学科を除く)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	15	5	2	2	1
	英文学科	15	5	11	9	4
	美学美術史学科	10	4	1	1	1
	計	40	14	14	12	6
生活科学部	食生活科学科 食物科学専攻	5	3	1	1	0
	生活環境学科	10	6	0	0	0
	生活文化学科 生活文化専攻	10	4	1	1	1
	生活文化学科 幼児保育専攻	5	若干名	0	0	0
	計	30	-	2	2	1
学社人部会館	人間社会学科	20	5	8	7	5
	計	20	5	8	7	5
合計		90	-	24	21	12

2011 年度入学試験結果 (大学院)

研究科・専攻	志願者等	内部				一般				社会人				外国人				計		
		I 期	II 期	III 期	IV 期	I 期	II 期	III 期	IV 期	I 期	II 期	III 期	IV 期	I 期	II 期	III 期	IV 期			
文学研究科	国文学専攻 (博士後期)	志願者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
	合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0		
	国文学専攻 (博士前期)	志願者	-	4	0	-	-	1	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	5	
	合格者	-	4	0	-	-	1	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	5		
	英文学専攻 (修士)	志願者	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	合格者	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0		
美術史学専攻 (博士後期)	志願者	-	0	2	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	2		
	合格者	-	0	1	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	1		
	美術史学専攻 (博士前期)	志願者	-	1	5	-	-	0	2	-	-	0	0	-	-	0	1	-	9	
	合格者	-	1	5	-	-	0	1	-	-	0	0	-	-	0	1	-	8		
	生活科学研究科	食物栄養学専攻 (博士後期)	志願者	0	1	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1
		合格者	0	1	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1	
食物栄養学専攻 (博士前期)		志願者	0	0	0	-	0	1	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1	
合格者		0	0	0	-	0	1	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1		
生活環境学専攻 (修士)	志願者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2		
	合格者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	人間社会学専攻 (修士)	志願者	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	
		合格者	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	
合計	志願者	0	6	10	1	0	2	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	24		
	合格者	0	6	9	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	21		

## 2011年度 実践女子学園中学校入試結果

### ■スタンダード実践クラス(SJC)

	第1回	第2回	第3回	帰国1	帰国2	合計
募集人数	90	70	60	合計20		240
志願者数	185	471	456	47	27	1186
受験者数	166	283	160	47	9	665
合格者数	113	163	92	32	5	405
追加合格者数	26			1		27
入学予定者数	232			12		244

### ■グローバルスタディーズクラス(GSC)

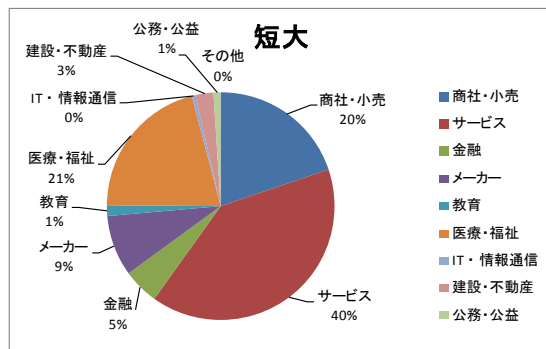
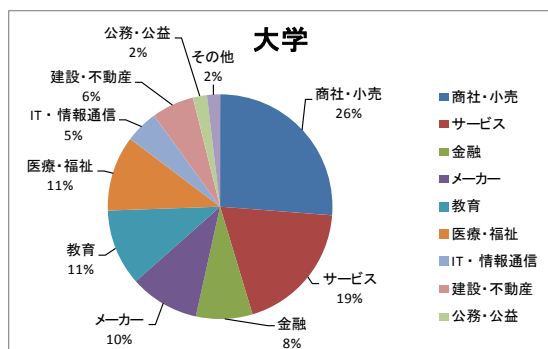
	一般	帰国1	帰国2	合計
募集人数	合計35			35
志願者数	48	64	41	153
受験者数	47	64	15	126
合格者数	35	49	10	94
追加合格者数	3	3		6
入学予定者数	16	18		34

平成 22 年度（平成 23 年 3 月）卒業生業種別就職状況（大学・短期大学）

（注：比率は業種別就職者数÷就職者総数で算出）

（平成 23 年 5 月 10 日現在）

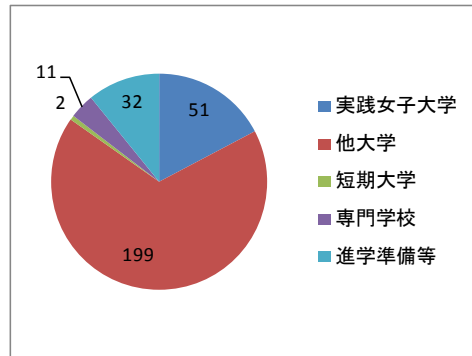
	文学部	生活科学部	人間社会学部	大学	短大	合計
卒業生数	378	336	173	887	365	1252
商社・小売	62	68	25	155	39	194
%	28.4%	25.7%	23.2%	26.3%	19.9%	24.6%
サービス	53	39	21	113	79	192
%	24.3%	14.7%	19.4%	19.1%	40.1%	24.4%
金融	23	14	11	48	10	58
%	10.8%	5.3%	10.2%	8.1%	5.1%	7.4%
メーカー	17	29	13	59	17	76
%	7.8%	10.9%	12.0%	10.0%	8.6%	9.6%
教育	19	42	4	65	3	68
%	8.7%	15.8%	3.7%	11.0%	1.5%	8.6%
医療・福祉	14	42	8	64	41	105
%	6.4%	15.8%	7.4%	10.8%	20.8%	13.3%
IT・情報通信	14	6	8	28	1	29
%	6.4%	2.3%	7.4%	4.7%	0.5%	3.7%
建設・不動産	6	15	15	36	5	41
%	2.8%	5.7%	13.9%	6.1%	2.5%	5.2%
公務・公益	5	5	2	12	2	14
%	2.3%	1.9%	1.9%	2.0%	1.0%	1.8%
その他	5	5	1	11	0	11
%	2.3%	1.9%	0.9%	1.9%	0.0%	1.4%
就職者数	218	265	108	591	197	788
%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



平成22年度 高等学校卒業生進学状況（卒業生295名）

平成22年度高等学校卒業生進学状況

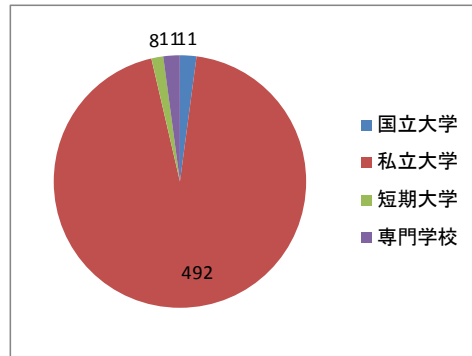
	人数	%
実践女子大学	51	17.3
他大学	199	67.5
短期大学	2	0.7
専門学校	11	3.7
進学準備等	32	10.8
合計	295	100



平成22年度大学等合格状況

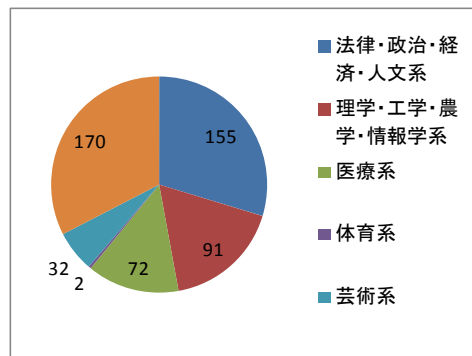
【合格実績】

	人数	%
国立大学	11	2.1
私立大学	492	94.3
短期大学	8	1.5
専門学校	11	2.1
合計	522	100



【分野別合格実績】

	人数	%
法律・政治・経済・人文系	155	29.7
理学・工学・農学・情報学系	91	17.4
医療系	72	13.8
体育系	2	0.4
芸術系	32	6.1
女子大学系	170	32.6
合計	522	100



### III 財務の概要<sup>1</sup>

#### 決算書類等

平成 22 年度財務の概要を説明するにあたり、以下の計算書類等を添付しました。

- (1) 資金収支計算書
- (2) 消費収支計算書
- (3) 貸借対照表

(各計算書類の詳細は、学園ウェブサイト内 財務情報公開ページ <<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a07a05a03>> に掲載している「平成 22 年度 計算書類」をご確認ください。)

#### 1 資金収支計算書の状況 (P. 39「資金収支計算書(総括表)」)

資金収支計算書は、平成 22 年度中の全資金の流れを表示したものです。

前年度繰越支払資金	45 億 2,160 万円	(B)
<u>当年度資金収入</u>	<u>103 億 8,293 万円</u>	(A)
総資金収入	149 億 453 万円	(C)
当年度資金支出	101 億 9,944 万円	(D)

当年度中の資金収入額は 103 億 8,293 万円 (A) で、これに平成 21 年度からの繰越支払資金 45 億 2,160 万円 (B) を加えると、資金収入総額は 149 億 453 万円 (C) となりました。これに対して平成 22 年度の教育研究活動等の資金支出総額は 101 億 9,944 万円 (D) で、したがって平成 23 年度に繰り越される支払資金 (C-D) は 47 億 509 万円 (E) となりました。

#### 2 消費収支計算書の状況 (P. 39「消費収支計算書(総括表)」)

消費収支計算書は、平成 22 年度中の消費収入と消費支出との均衡状態を示すものです。

当年度帰属収入	84 億 6,710 万円	① (消費収支計算書総括表 a~g 合計)
<u>基本金組入額</u>	<u>2 億 103 万円</u>	②
消費収入	82 億 6,607 万円	③ (① - ②)
消費支出	79 億 3,105 万円	④ (消費収支計算書総括表 h~m 合計)

##### (1) 帰属収入 P. 39「図 1. ①帰属収入内訳」

学生生徒等納付金(a)は、学生生徒数が 6,413 名 (5 月 1 日現在) で、納付金総額では予算比 52 万円減の 65 億 4,531 万円となりました。

手数料(b)は、志願者数の変動から入学検定料が予算比 885 万円増の 1 億 5,851 万円になったことなどにより、総額では予算比 924 万円増の 1 億 6,791 万円となりました。

寄付金(c)は、新入生寄付金が 4,255 万円、大学・短期大学後援会寄付金が 2,200 万円、現物寄付 892 万円などで、寄付金総額では 9,250 万円(予算比 1,545 万円増)となりました。

補助金(d)は、国からの主に大学・短期大学に対する国庫補助金 4 億 6,018 万円のほか、東京都から主に中学校高等学校への地方公共団体補助金 6 億 1,186 万円により、総額で 10 億 7,204 万円(予算比 339 万円増)となりました。

これらの結果、帰属収入総額 (①) は 84 億 6,710 万円(予算比 5,379 万円増)となりました。

<sup>1</sup> 文中の「予算」は平成 22 年度補正予算を示す。

## (2) 基本金組入額

第1号基本金は、校舎、機器備品、図書等の施設設備および当該借入金返済額等 3,103 万円を組み入れました。

第2号基本金は、学部学科改革整備資金として、1億5,000万円を組み入れました。

第3号基本金は、奨学基金拡充のため前年度と同額の2,000万円を組み入れました。

基本金組入額総額(②)では予算比8,697万円減の2億103万円を組み入れました。

以上により、消費収入の部合計(③)は対予算額で1億4,076万円増加の82億6,607万円となりました。

## (3) 消費支出 P.39「図2. ④消費支出内訳」

支出面では、最も多額な費用を要したのは人件費(h)です。消費支出総額の64.7%にあたる51億3,522万円を支出しました。これに教育研究経費(i)等を加えた消費支出の部合計額(④)は、予算額を1億443万円下回る79億3,105万円となりました。

## (4) 消費収支差額

以上から、当年度の消費収支差額(⑤)は3億3,502万円(③-④)の収入超過となり、累積消費支出超過額(o)は1億6,695万円に減少しました。

## 3 貸借対照表の状況 (P.40「貸借対照表(総括表)」)

貸借対照表は、当期末時点での財政状態を表した計算書で、学園の資産と負債・基本金・消費収支差額の状態を示しています。企業会計と異なり、学校会計においては資本の概念が無いので、基本金として組入れている金額と当期末までの消費収支計算の結果である消費収支差額が、貸借対照表の貸方に計上されていることが大きな特徴となっています。

### (1) 資産総額

資産総額(ア)は380億9,406万円で、その内訳は有形固定資産181億8,077万円、その他の固定資産148億9,028万円および流動資産50億2,301万円となりました。特に、学部学科改革整備資金引当特定資産が前年度比1億5,000万円増加の22億円、第3号基本金引当特定資産が前年度比2,000万円増加の7億6,000万円、現金預金が前年度比1億8,349万円増加の47億509万円となりました。

### (2) 負債総額

負債総額(イ)は65億6,353万円となりました。その内訳は固定負債46億7,786万円、流動負債が18億8,567万円となっています。

### (3) 基本金

基本金(ウ)は316億9,748万円となりました。その内訳は、校地・校舎・機器備品・図書など教育研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金が281億955万円、創立120周年記念整備事業資金を留保するための第2号基本金が22億円、奨学基金・教育研究基金などの運用果実を教育研究経費に充てるための第3号基本金が7億6,000万円等となっています。

### (4) 消費収支差額

翌年度繰越消費支出超過額(エ)は、3億3,502万円の収入超過額によって、当期末は1億6,695万円に減少しました。

#### 4 収益事業決算の状況 (P. 40「収益事業会計」)

学園寄附行為第6条に基づく保険代理業にかかわる計算書類です。公益事業である学校運営遂行のため、主に学生・生徒総合補償制度保険により収益をあげ、学校会計に寄付することを目的としています。なお、収益事業会計の決算報告書数値は千円未満を調整し、千円単位としています。

##### (1) 損益計算書

損害保険手数料の営業収入等6,905千円から印刷費等の営業費用1,288千円を控除した営業利益に、預金等の受取利息である営業外損益を加えた経常利益は5,635千円となりました。このうち、学校会計への寄付金4,800千円、法人税等充当金100千円を繰り入れ支出した結果、当期純利益は735千円となりました。

なお、学校会計への繰入金支出は、学校会計の事業収入科目「収益事業収入」に計上されています。

##### (2) 貸借対照表

当期の資産合計は34,276千円で、負債合計は25,007千円、純資産合計は9,269千円となりました。なお、純資産の部の出資金1,000千円は学校会計の貸借対照表科目「その他の固定資産：収益事業元入金」の金額と一致しています。

#### 5 今後の財政上の課題

当期は、消費収入が消費支出を上回り消費収入超過となりました。繰越消費支出超過額も順調に減少しており、前年度に引き続き財政状況の健全化が認められます。

しかし今後は大学・短期大学改革をはじめとした学園の諸改革を実現するため、積極的な施設設備投資と経常経費増が予定されています。これにより、収支悪化と繰越消費支出超過額の累計額拡大が予測されます。これを回避するためには、引き続き賞与見直しや教職員数管理等による人件費抑制、業務効率化/平準化・事務組織改革などによる支出管理と、教学改革ならびに渋谷校地活用による学生生徒数確保と収益性改善など、財政の健全性維持に努めなければなりません。「繰越支払資金」や「引当特定資産」の保有状況を把握した上で理想的な保有額の目標設定を行い、資金計画ならびに設置認可に伴う財源確保の策定方針を確立・遂行する必要があります。

## 消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移（平成18年度～平成22年度）

過去5年間の財務状況推移を確認する資料として、P.41以降に推移・比較表を添付しました（表ならびにグラフの金額については、百万円未満を調整し百万円単位としています）。

### 1 消費収支の推移

（P.41「消費収支の推移表」、P.44図表 参照）

平成22年度の消費収入超過額は、3億3,500万円となりました。前年度が3億5,300万円の消費収入超過であったのに比し、1,800万円の減少となりました。

5年間の推移では、帰属収入について平成18年度が87億2,000万円、平成19年度が84億3,400万円、平成22年度が84億6,700万円となり、平成19年度以降はほぼ横這いで推移しています。

### 2 貸借対照表の推移

（P.41「貸借対照表の推移表」、P.45-46図表 参照）

平成22年度の学園財政状況を見ると、資産総額は380億9,400万円で平成18年度の356億4,200万円より24億5,200万円増加しています。5年間の推移として見ても、毎年着実な増加が確認できます。平成18年度と平成22年度の比較内訳は、投資した資金を長期間にわたって回収しなければならない「有形固定資産」が14億7,100万円減少の181億8,100万円に対し、主として金融資産である「その他の固定資産」は50億1,400万円増加の148億9,000万円となりました。金融資産のうち、将来の事業財源となる「第2号基本金引当資産」、奨学基金の「第3号基本金引当資産」等が着実に増加しています。「流動資産」は、平成22年度が50億2,300万円で平成18年度に比し10億9,100万円減少し、特に「現金預金」が5億8,000万円減少しています。これは平成19年度と平成20年度に、保有する「現金預金」を主として「施設設備維持引当特定資産」「第2号基本金引当資産」等に積み立てたことによるものです。このことにより、例えば減価償却累計額に対する施設設備維持引当特定資産の割合は39.1%（平成18年度）→79.4%（平成22年度）と改善しています。

負債総額は、平成22年度が65億6,400万円で平成18年度より2億4,100万円減少となりました。資産総額との比率でも、着実に減少しています（総負債比率19.1%→17.2%）。退職給与引当資産額は19億3,600万円で退職給与引当資産率（退職給与引当特定資産/退職給与引当金）は66.9%となり、同規模大学法人の平均水準（62.1%）を上回っていますが、医療法人を除いた全国平均水準（70.6%）には届かない状況にあります。また、負債総額のうち長期借入金は日本私立学校振興・共済事業団から借り入れた校舎建設資金で、毎年着実に返済・減少しています。

基本金は、平成22年度は316億9,700万円で平成18年度の306億9,500万円より10億200万円の増加となりました。

消費収支差額（繰越消費支出超過額）は、平成22年度は平成18年度に比し16億9,100万円減少の1億6,700万円となり、総資金に占める割合（消費収支差額構成比率）は△0.4%に改善しました。これと同時に、自己資金（基本金+消費収支差額）も平成18年度は288億3,700万円であったのが平成22年度は315億3,000万円となり、26億9,300万円増加しています。自己資金構成比率も80.9%から82.8%に改善が認められます。



[学校会計]

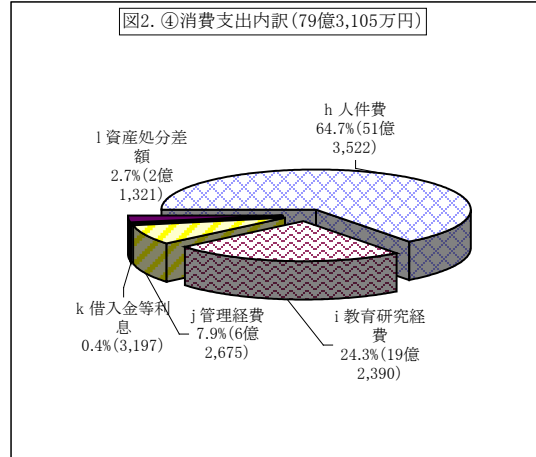
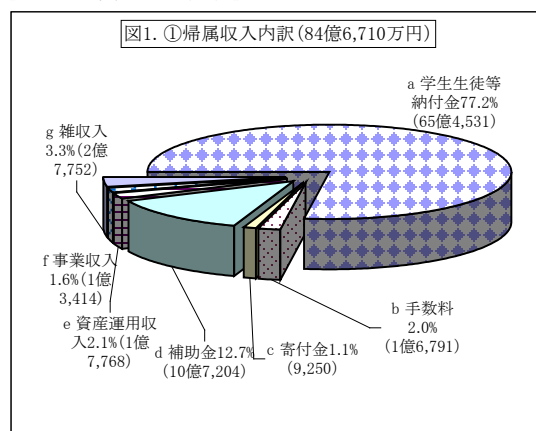
資金収支計算書(総括表) (単位:万円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	654,583	654,531	52
手数料収入	15,867	16,791	△ 924
寄付金収入	7,114	8,358	△ 1,244
補助金収入	106,865	107,204	△ 339
資産運用収入	18,081	17,768	313
事業収入	11,159	13,414	△ 2,255
雑収入	27,071	27,752	△ 681
前受金収入	117,603	125,213	△ 7,610
その他の収入	178,270	232,926	△ 54,656
資金収入調整勘定	△ 164,981	△ 165,664	683
前年度繰越支払資金	452,160	452,160	
収入の部合計	1,423,792	1,490,453	△ 66,661
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	511,535	513,381	△ 1,846
教育研究経費支出	140,918	128,809	12,109
管理経費支出	50,476	57,311	△ 6,835
借入金等利息支出	3,197	3,197	0
借入金等返済支出	13,887	13,887	0
施設関係支出	25,956	28,676	△ 2,720
設備関係支出	34,516	28,281	6,235
資産運用支出	52,021	52,449	△ 428
その他の支出	232,060	247,107	△ 15,047
予備費	5,000		5,000
資金支出調整勘定	△ 54,609	△ 53,154	△ 1,455
次年度繰越支払資金	408,835	470,509	△ 61,674
支出の部合計	1,423,792	1,490,453	△ 66,661

消費収支計算書(総括表) (単位:万円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	654,583	654,531	52
手数料	15,867	16,791	△ 924
寄付金	7,705	9,250	△ 1,545
補助金	106,865	107,204	△ 339
資産運用収入	18,081	17,768	313
事業収入	11,159	13,414	△ 2,255
雑収入	27,071	27,752	△ 681
① 帰属収入合計	841,331	846,710	△ 5,379
② 基本金組入額合計	△ 28,800	△ 20,103	△ 8,697
③ 消費収入の部合計	812,531	826,607	△ 14,076
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	511,346	513,522	△ 2,176
教育研究経費	209,662	192,390	17,272
管理経費	56,206	62,675	△ 6,469
借入金等利息	3,197	3,197	0
資産処分差額	18,137	21,321	△ 3,184
予備費	5,000		5,000
④ 消費支出の部合計	803,548	793,105	10,443
⑤ 当年度消費収入超過額	8,983	33,502	
⑥ 前年度繰越消費支出超過額	50,197	50,197	
⑦ 翌年度繰越消費支出超過額	41,214	16,695	

【図表 消費収支計算書】 (単位:万円)



[学校会計]

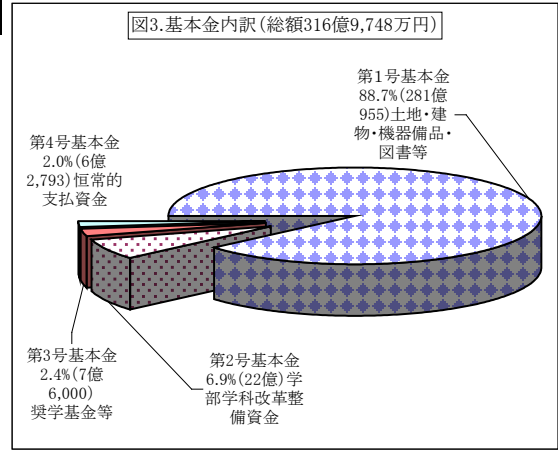
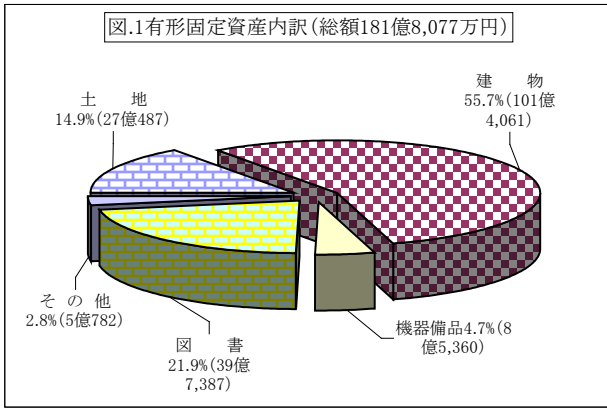
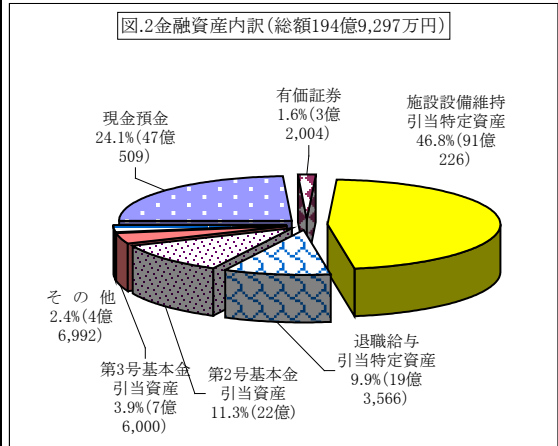
貸借対照表(総括表)

(単位:万円)

[図表 貸借対照表]

(単位:万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
固定資産	3,307,105	3,290,597	16,508
有形固定資産	1,818,077	1,850,495	△ 32,418
その他の固定資産	1,489,028	1,440,102	48,926
流動資産	502,301	486,769	15,532
(ア) 資産の部合計	3,809,406	3,777,366	32,040
[負債の部]			
固定負債	467,786	481,274	△ 13,488
流動負債	188,567	196,644	△ 8,077
(イ) 負債の部合計	656,353	677,918	△ 21,565
[基本金の部]			0
(ウ) 基本金の部合計	3,169,748	3,149,645	20,103
[消費収支差額の部]			0
(エ) 消費収支差額の部合計	△ 16,695	△ 50,197	33,502
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	3,809,406	3,777,366	32,040



[収益事業会計]

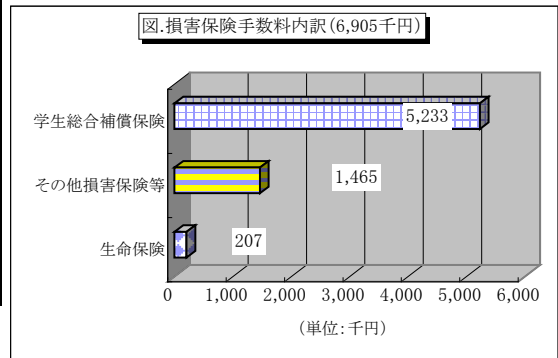
損益計算書(総括表)

(単位:千円)

[図表 損益計算書]

(単位:千円)

科目	本年度	前年度	増減
損害保険手数料	6,905	7,218	△ 313
営業損益			
一般管理費	1,288	1,433	△ 145
営業利益	5,617	5,785	△ 168
営業外収益	18	13	5
経常利益	5,635	5,798	△ 163
一般会計繰入金支出(寄付金)	4,800	4,800	0
税引前当期利益	835	998	△ 163
法人税等充当金繰入額	100	0	100
当期純利益	735	998	△ 263



貸借対照表(総括表)

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
流動資産	34,276	31,275	3,001
資産の部合計	34,276	31,275	3,001
[負債の部]			
流動負債	25,007	22,741	2,266
負債の部合計	25,007	22,741	2,266
[純資産の部]			
出資金	1,000	1,000	0
繰越利益剰余金	8,269	7,534	735
純資産の部合計	9,269	8,534	735
負債・純資産の部合計	34,276	31,275	3,001

## 1 消費収支の推移表

(単位 百万円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
学生生徒等納付金	6,422	6,559	6,385	6,460	6,545
手数料	170	145	173	170	168
寄付金	92	94	107	90	93
補助金	1,017	1,036	1,008	1,067	1,072
その他の収入	1,019	600	562	657	589
帰属収入合計	8,720	8,434	8,235	8,444	8,467
基本金組入額	△ 1,550	△ 69	△ 554	△ 178	△ 201
消費収入の部合計	7,170	8,365	7,681	8,266	8,266
人件費	5,142	5,017	5,088	5,415	5,135
教育研究経費	1,841	1,831	1,853	1,879	1,924
(内、減価償却額)	( 638 )	( 616 )	( 657 )	( 653 )	( 636 )
管理経費	491	528	509	535	627
(内、減価償却額)	( 56 )	( 57 )	( 60 )	( 57 )	( 54 )
借入金等利息	42	40	37	35	32
その他経費	83	94	46	49	213
消費支出の部合計	7,599	7,510	7,533	7,913	7,931
消費収支差額	△ 429	855	148	353	335
帰属収支差額	1,121	924	702	531	536

## 2 貸借対照表の推移表

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
固定資産	29,528	31,544	32,884	32,906	33,071
有形固定資産	19,652	19,105	18,626	18,505	18,181
土地	2,700	2,705	2,705	2,705	2,705
建物	11,780	11,280	10,890	10,675	10,141
その他	5,172	5,120	5,031	5,125	5,335
その他の固定資産	9,876	12,439	14,258	14,401	14,890
長期有価証券	1,236	1,764	3	10	320
特定資産	6,274	8,296	11,471	11,491	11,508
(内、退職給与引当特定資産)	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )	( 1,936 )
(内、施設備維持引当特定資産)	( 3,956 )	( 5,956 )	( 9,099 )	( 9,101 )	( 9,102 )
第2号基本金特定資産	1,550	1,550	1,950	2,050	2,200
第3号基本金特定資産	680	700	720	740	760
その他	136	129	114	110	102
流動資産	6,114	4,664	3,961	4,868	5,023
現金預金	5,285	4,387	3,720	4,522	4,705
短期有価証券	499	0	0	0	0
その他	330	277	241	346	318
資産の部合計	35,642	36,208	36,845	37,774	38,094
固定負債	4,912	4,641	4,447	4,813	4,678
長期借入金	1,933	1,794	1,655	1,516	1,378
退職給与引当金	2,902	2,776	2,725	2,892	2,893
その他	77	71	67	405	407
流動負債	1,893	1,806	1,936	1,967	1,886
短期借入金	139	139	139	139	139
前受金	1,352	1,281	1,385	1,383	1,252
その他	402	386	412	445	495
負債の部合計	6,805	6,447	6,383	6,780	6,564
第1号基本金	27,837	27,886	28,021	28,078	28,109
第2号基本金	1,550	1,550	1,950	2,050	2,200
第3号基本金	680	700	720	740	760
その他	628	628	628	628	628
基本金の部合計	30,695	30,764	31,318	31,496	31,697
消費収支差額の部合計	△ 1,858	△ 1,003	△ 856	△ 502	△ 167
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	35,642	36,208	36,845	37,774	38,094

## 注記

減価償却額の累計額の合計額	10,119	10,579	11,053	11,202	11,464
減価償却資産取得価額	23,376	23,208	23,138	23,060	22,727
基本金未組入額	1,939	1,800	1,661	1,631	1,538

財務比率比較表

財務比率区分			実践女子学園					全国平均	全国平均 (医療法人除)	同規模 法人平均	
			H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度				
貸 借 対 照 表 関 係 比 率	1	固定資産 構成比率	固定資産 総資産	82.8	87.1	89.2	87.1	86.8	86.1	86.8	85.2
	2	流動資産 構成比率	流動資産 総資産	17.2	12.9	10.8	12.9	13.2	13.9	13.2	14.8
	3	固定負債 構成比率	固定負債 総資産	13.8	12.8	12.1	12.7	12.3	9.0	7.5	7.9
	4	流動負債 構成比率	流動負債 総資産	5.3	5.0	5.3	5.2	5.0	6.0	5.7	5.9
	5	自己資金 構成比率	自己資金 総資産	80.9	82.2	82.7	82.1	82.8	85.0	86.8	86.2
	6	消費収支差額 構成比率	消費収支差額 総資産	△ 5.2	△ 2.8	△ 2.3	△ 1.3	△ 0.4	△ 12.7	△ 8.1	△ 6.7
	7	固定比率	固定資産 自己資金	102.4	106.0	108.0	106.2	104.9	101.4	100.0	98.9
	8	固定長期 適合率	固定資産 自己資金+固定負債	87.5	91.7	94.2	91.9	91.3	91.7	92.0	90.6
	9	流動比率	流動資産 流動負債	323.0	258.3	204.6	247.5	266.3	229.5	232.7	251.1
	10	総負債比率	総負債 総資産	19.1	17.8	17.3	17.9	17.2	15.0	13.2	13.8
	11	負債比率	総負債 自己資金	23.6	21.7	21.0	21.9	20.8	17.7	15.2	16.0
	12	前受金保有比率	現金預金 前受金	390.9	342.5	268.6	326.9	375.8	325.4	298.1	315.7
	13	退職給与引当 資産率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	66.7	69.7	71.0	66.9	66.9	61.8	70.6	62.1
	14	基本金比率	基本金 基本金要組入額	93.0	93.5	94.1	95.0	94.9	96.6	96.9	97.4
	15	減価償却比率	減価償却累計額 減価償却資産取得価額	37.4	45.6	47.8	48.6	50.4	46.5	43.9	45.8
消 費 収 支 計 算 書 関 係 比 率	1	人件費比率	人件費 帰属収入	59.0	59.5	61.8	64.1	60.6	50.0	52.6	51.8
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	80.1	76.5	79.7	83.8	78.5	93.2	72.4	78.1
	3	教育研究経費 比率	教育研究経費 帰属収入	21.1	21.7	22.5	22.3	22.7	36.0	30.9	30.2
	4	管理経費比率	管理経費 帰属収入	5.6	6.3	6.2	6.3	7.4	8.1	10.3	8.9
	5	借入金等 利息比率	借入金等利息 帰属収入	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5
	6	帰属収支 差額比率	帰属収入-消費支出 帰属収入	12.9	11.0	8.5	6.3	6.3	3.7	3.7	6.7
	7	消費収支比率	消費支出 消費収入	106.0	89.8	98.1	95.7	95.9	107.9	110.8	107.5
	8	学生生徒等 納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	73.6	77.8	77.5	76.5	77.3	53.6	72.7	66.3
	9	寄付金比率	寄付金 帰属収入	1.1	1.1	1.3	1.1	1.1	2.2	2.5	4.6
	10	補助金比率	補助金 帰属収入	11.7	12.3	12.2	12.6	12.7	10.8	12.9	12.6
	11	基本金組入 率	基本金組入額 帰属収入	17.8	0.8	6.7	2.1	2.4	10.7	13.1	13.2
	12	減価償却 費比率	減価償却額 消費支出	9.1	9.0	9.5	8.4	8.1	9.7	11.3	11.1

(注) 1.総資産=負債+基本金+消費収支差額 自己資金=基本金+消費収支差額

2.学園以外の数値は平成21年度のもので(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」平成22年度版より転用)。

[財務比率説明表]

貸借対照表関係比率

分類	番号	比率名	算式	評価
自己資金は充実しているか	5	自己資金構成比率	$(\text{基本金} + \text{消費収支差額}) \div \text{総資産}$	△
	6	消費収支差額構成比率	$\text{消費収支差額} \div \text{総資産}$	△
	14	基本金比率	$(\text{第1号}) \text{基本金} \div \text{基本金要組入額}$	△
長期資金で固定資産は賄われているか	7	固定比率	$\text{固定資産} \div \text{自己資金}$	▼
	8	固定長期適合率	$\text{固定資産} \div (\text{自己資金} + \text{固定負債})$	▼
資産構成はどうか	1	固定資産構成比率	$\text{固定資産} \div \text{総資産}$	▼
	2	流動資産構成比率	$\text{流動資産} \div \text{総資産}$	△
	15	減価償却比率	$\text{減価償却累計額} \div \text{減価償却資産取得価額}$	～
負債に備える資産が蓄積されているか	9	流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債}$	△
	12	前受金保有比率	$\text{現金預金} \div \text{前受金}$	△
	13	退職給与引当金資産率	$\text{退職給与引当特定資産} \div \text{退職給与引当金}$	△
負債の割合はどうか	3	固定負債構成比率	$\text{固定負債} \div \text{総資産}$	▼
	4	流動負債構成比率	$\text{流動負債} \div \text{総資産}$	▼
	10	総負債比率	$(\text{固定負債} + \text{流動負債}) \div \text{総資産}$	▼
	11	負債比率	$(\text{固定負債} + \text{流動負債}) \div \text{自己資金}$	▼

消費収支計算書関係比率

	番号	比率名	算式	評価
経営状況はどうか	6	帰属収支差額比率	$(\text{帰属収入} - \text{消費支出}) \div \text{帰属収入}$	△
収入構成はどうか	8	学生生徒等納付金比率	$\text{学生生徒等納付金} \div \text{帰属収入}$	～
	9	寄付金比率	$\text{寄付金} \div \text{帰属収入}$	△
	10	補助金比率	$\text{補助金} \div \text{帰属収入}$	△
支出構成は適切であるか	1	人件費比率	$\text{人件費} \div \text{帰属収入}$	▼
	3	教育研究費比率	$\text{教育研究費} \div \text{帰属収入}$	△
	4	管理経費比率	$\text{管理経費} \div \text{帰属収入}$	▼
	5	借入金等利息比率	$\text{借入金等利息} \div \text{帰属収入}$	▼
	11	基本金組入率	$\text{基本金組入額} \div \text{帰属収入}$	△
	12	減価償却費比率	$\text{減価償却額} \div \text{消費支出}$	～
収入構成と支出のバランスはとれているか	2	人件費依存率	$\text{人件費} \div \text{学生生徒等納付金}$	▼
	7	消費収支比率	$\text{消費支出} \div \text{消費収入}$	▼

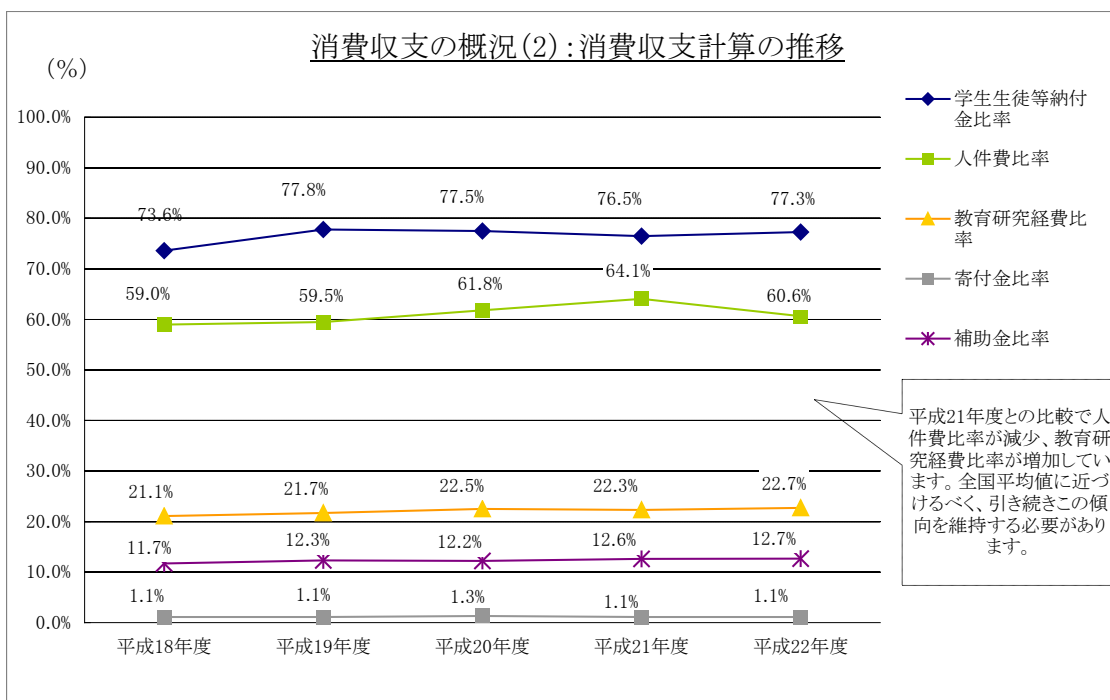
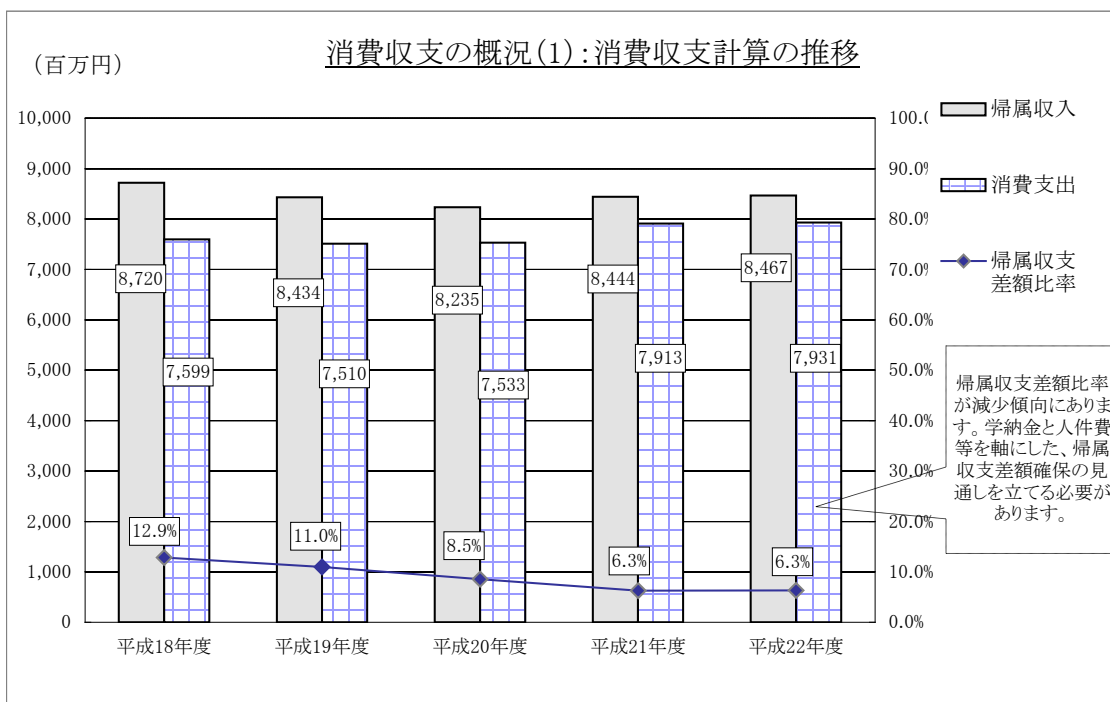
(注)1.財務比率の評価は、個々の学校法人に適用する場合に内部事情等を個別に判断しなければ、一概にその良否をいえませんが、日本私立学校振興・共済事業団では財務比率の高低の評価を次のとおりとしました。

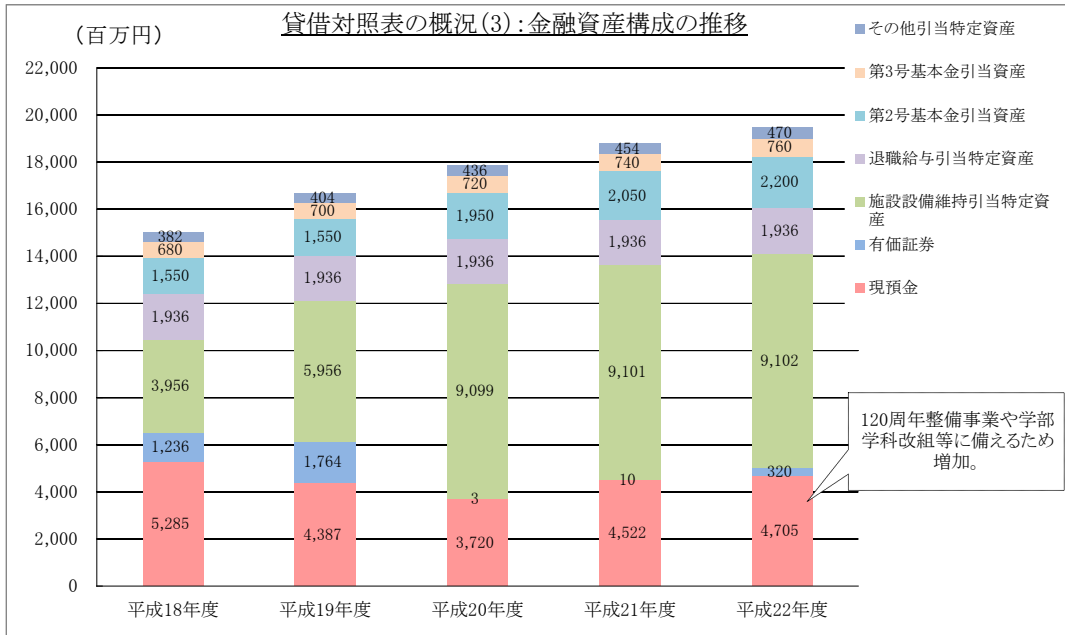
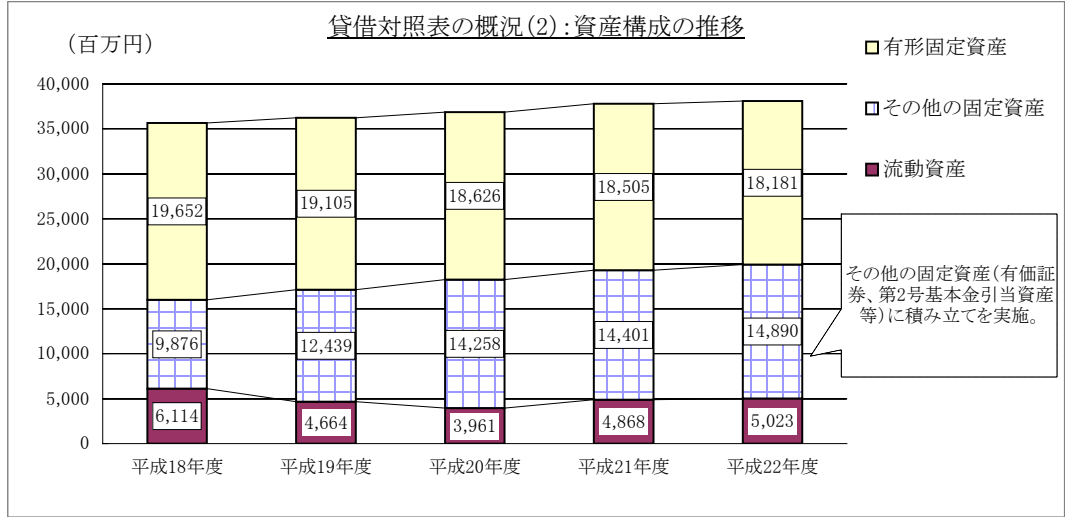
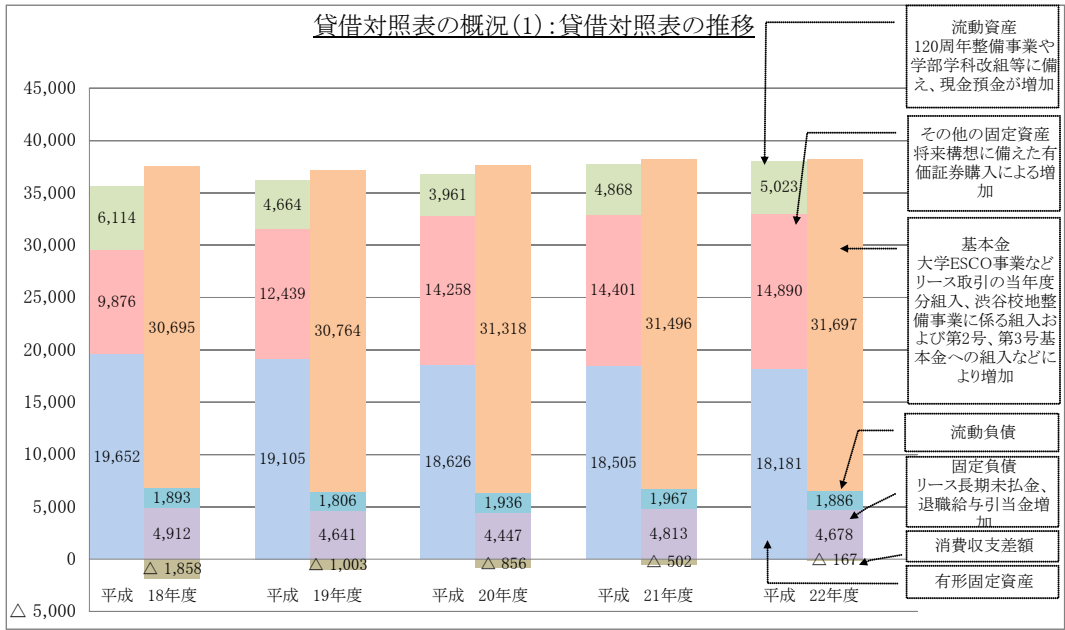
△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

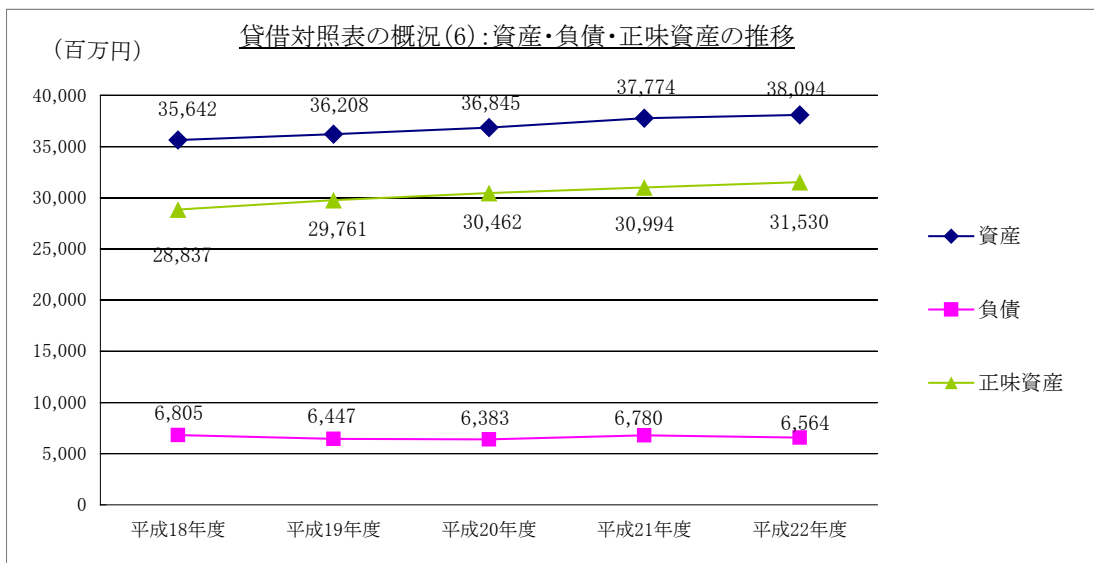
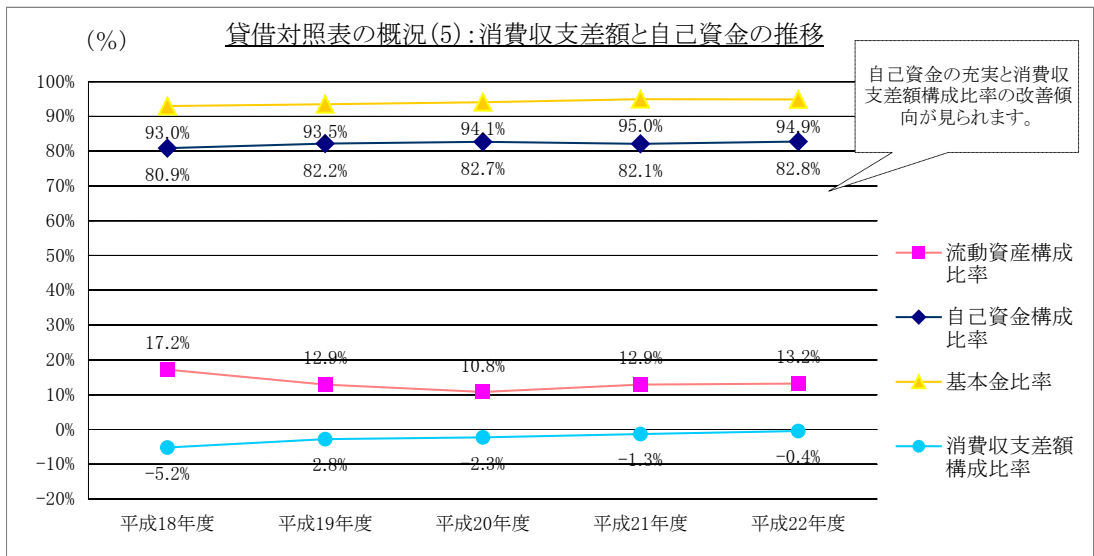
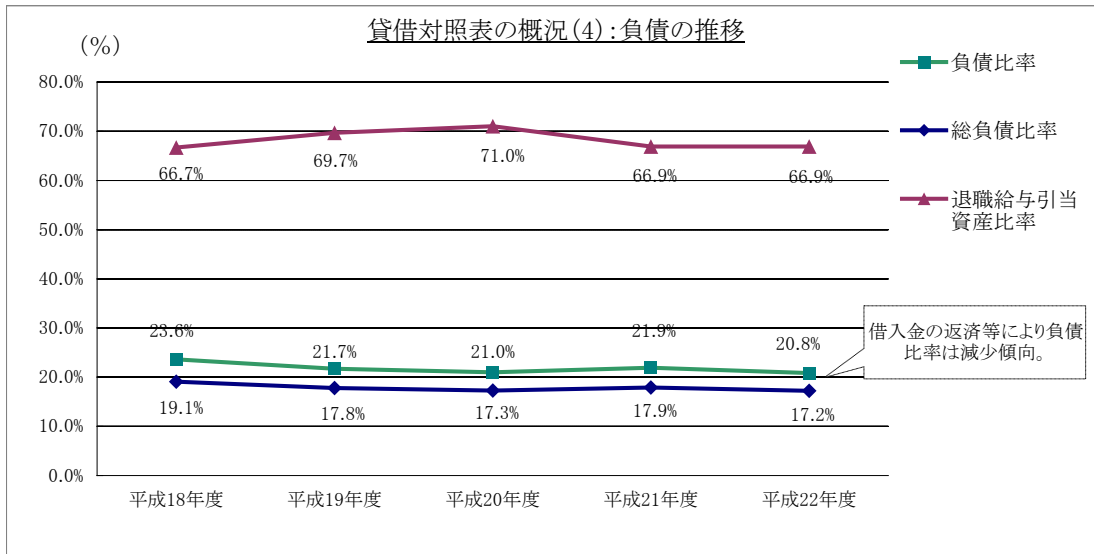
(注)2.総資産＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

(注)3.番号は財務比率の区分を示しています。

(注)4.形式および注記は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」H22年度版より転用しました。









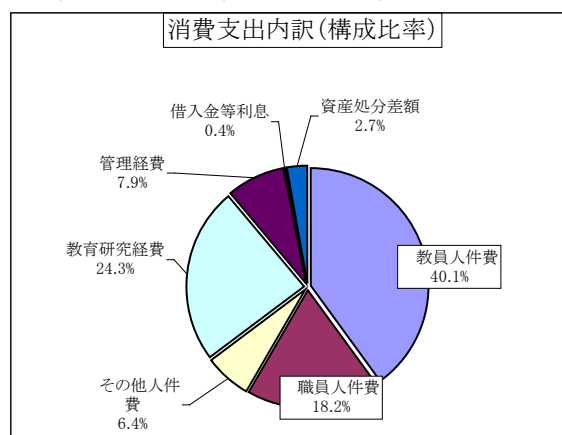
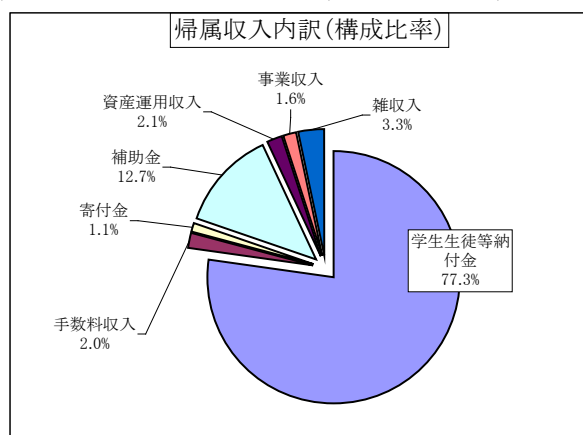
[消費収入の部]

(単位:万円)

科 目	法人本部	(%)	大 学	(%)	短期大学	(%)	中高	(%)	合計	(%)
学生生徒等納付金	0	0.0	429,159	84.9	87,959	73.9	137,412	63.8	654,531	77.3
手数料収入	1,354	20.5	11,453	2.3	1,615	1.4	2,368	1.1	16,791	2.0
寄付金	0	0.0	4,771	0.9	965	0.8	3,514	1.6	9,250	1.1
補助金	0	0.0	33,711	6.7	11,756	9.9	61,738	28.6	107,204	12.7
資産運用収入	1,308	19.8	9,608	1.9	3,594	3.0	3,259	1.5	17,768	2.1
事業収入	3,928	59.6	4,889	1.0	3,559	3.0	1,038	0.5	13,414	1.6
雑収入	4	0.1	11,919	2.4	9,635	8.1	6,194	2.9	27,752	3.3
帰属収入合計	6,594	100.0	505,510	100.0	119,083	100.0	215,523	100.0	846,710	100.0
基本金組入額合計	△ 124	-1.9	△ 15,550	-3.1	△ 3,429	-2.9	△ 1,000	-0.5	△ 20,103	-2.4
消費収入の部合計	6,470		489,960		115,654		214,523		826,607	

[消費支出の部]

科 目	法人本部	(%)	大 学	(%)	短期大学	(%)	中高	(%)	合計	(%)
人件費	35,784	75.1	265,970	66.1	84,906	66.0	126,862	59.1	513,522	64.7
教員人件費	0	0.0	162,071	40.3	46,220	36.0	110,008	51.2	318,299	40.1
職員人件費	21,925	46.0	84,659	21.1	26,985	21.0	10,730	5.0	144,299	18.2
その他人件費	13,859	29.1	19,240	4.8	11,701	9.1	6,124	2.9	50,924	6.4
教育研究経費	332	0.7	101,005	25.1	32,275	25.1	58,777	27.4	192,390	24.3
管理経費	11,528	24.2	31,597	7.9	10,729	8.3	8,821	4.1	62,675	7.9
借入金等利息	0	0.0	847	0.2	0	0.0	2,350	1.1	3,197	0.4
資産処分差額	1	0.0	2,667	0.7	649	0.5	18,005	8.4	21,321	2.7
消費支出の部合計	47,645	100.0	402,086	100.0	128,559	100.0	214,815	100.0	793,105	100.0
当年度消費収支差額	△ 41,175		87,874		△ 12,905		△ 292		33,502	



[財務比率比較表]

財務比率区分		学園	A法人	B法人	C法人	同規模法人平均
1	人件費比率	人件費 / 帰属収入	58.9	53.2	57.8	51.8
2	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	75.2	68.0	75.0	78.1
3	教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	28.8	28.1	31.5	30.2
4	帰属収支差額比率	(帰属収入 - 消費支出) / 帰属収入	2.1	10.6	5.1	6.7
5	消費収支比率	消費支出 / 消費収入	103.1	103.8	94.9	107.5
6	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入	78.4	78.2	77.1	66.3
□	教育研究経費構成比率 (文科省設置認可基準 30.0以上)	教育研究経費 / 消費支出	29.5	31.4	33.2	
□	負債償還比率 (文科省設置認可基準 20.0未満)	(借入金等返済 + 借入金等利息) / 帰属収入	5.0	3.6	0.9	

(注) 1. 学園以外の数値は、平成21年度東京都所在女子大学法人の数値。

2. □欄の比率は文科省科学省寄附行為認可申請上の審査比率。